

300 クロスカントリー競技 (Cross - Country Competitions)

300.1 FIS/SAJ 公認の大会は FIS/SAJ が発行した下記の国際競技規則 (ICR) に従って行われるものとする。「第1セクション:第200条」、「第2セクション:第300条」、「ワールド・カップ・ルール」、「FIS/SAJ ポイント・ルール及びガイドライン」、並びにクロスカントリー委員会によって承認された「クロスカントリー年間ガイドライン」からなる。

A. 組織 (Organization)

301 組織委員会 (The Organizing Committee)

301.1 国際競技大会の開催に当り、組織委員会を設立しなければならない。組織委員会は、開催国スキー連盟、及び組織委員会により任命された委員によって構成される。組織委員会には開催者の権利、任務、義務が伴う。ICR210 参照。

全日本スキー選手権大会では、組織委員会 (OC) を設立しなければならない。同委員会委員は、全日本スキー連盟 (SAJ) と開催者が任命する。第210条参照。

302 競技役員 (The Competition Officials)

302.1 競技役員の任命 (Appointment of the Competition Officials)

302.1.1 国際スキー連盟 (FIS) 任命役員は、(FIS appointed officials are)

- 冬季オリンピック大会 (OWG)、及び世界スキー選手権大会 (WSC) では技術代表 (TD)、アシスタント技術代表 (ATD)、指名ジュリー、FIS レース・ディレクター (RD)。
- ワールド・カップ (WC) では、TD、ATD、FIS レース・ディレクター (RD)。
- ジュニア世界スキー選手権大会 (JWSC) では、TD、ATD、指名ジュリー1名、
- コンチネンタル・カップ (COC) 及び FIS 大会では TD、とする。

302.1.2 開催国スキー連盟が任命する役員 (NSA appointed officials are)

JWSC、WC、COC 及び FIS 大会には開催国からアシスタント TD (NATD) を任命する。

全日本選手権大会では、全日本スキー連盟 (SAJ) が TD、ATD、ジュリーを任命する。その他の SAJ 公認大会では、TD のほか必要に応じて ATD、ジュリーを任命する。

302.1.3 組織委員会が任命する役員 (Organizing Committee Appointed Members)

組織委員会によってその他すべてのメンバーが任命される。同委員会委員長若しくは副委員長が外部に対して同委員会代表者となり、同委員会の議長を務め、大会の前後はFIS/SAJと密接に協力し合うものとする。ICR 210 参照。

組織委員会は、競技役員任命の責任者となり、競技の技術面を監督する競技委員長を任命する。競技役員は特に割り当てられた任務を果たすのに、十分な資格があると見なされた専門家からなるものとし、役員1人に割り当てられる任務は1つのみとする。また、役員はユニフォーム、アーム・バンド、若しくはバッジなどで容易に識別されるようにしなければならない。

302.1.4 組織委員会は、TD、及びジュリーに対して、準備の進行状況や変更が行われるべきか否か、など定期的に報告しなければならない。

302.2 競技委員長に任命される競技役員 (Competition Officials Appointed by the Chief of Competition)

302.2.1 競技委員長に任命される 競技役員 は、

- 競技セクレタリー
- コース係長
- 計時計算・データ処理係長
- スタジアム係長
- コントロール (関門) ・保安係長、とする。

その他の役員は、必要に応じて競技委員長が任命するものとする。

302.3 競技役員及びその任務 (The Competition Officials and their Duties)

302.3.1 競技委員長は競技会の全ての局面に対して責任を負い、全ての競技役員の競技運営を監督する責任がある。TD に、準備状況と変更の必要性が生じた場合は絶えず報告をしなければならない。

302.3.2 競技セクレタリーは、競技の技術面にかかわるエントリー、チーム・キャプテン・ミーティングの統括と議事録作成、スタート・リストとリザルト発表、抗議、の全ての事務的な責任を負う。

302.3.3 コース係長は、競技コース、スキーテスト・エリアとウォーム・アップ用コースの準備 (グルーミング、標識及びフェンスの設置) に対して責任がある。

302.3.4 計時計算・データ処理係長 は、計時エリアで働く役員 (スタート係、フィニッ

シュ審判、フィニッシュ・コントローラー、手動計時係、電子計時係、中間計時係、計算係) に対する指示やコーディネーションの責任を負う。

302.3.5 スタジアム係長は、スタジアム・エリア内でのあらゆる活動に対して責任がある。スタジアム内のコース準備、スタート地点への選手の移動、コマーシャル・マーキング、フィニッシュ・エリア外への選手の誘導、その他ドーピング・コントローラーへのサポート等を含む。

302.3.6 コントロール（関門）・保安係長は、ジュリーと共に適切な場所にコントロール係を配置し、競技終了後は必要な情報を全て収集するとともに、コントロール・カードを回収し、どんな小さなできごとでもジュリーに報告する。

一箇所当たり、最低2人のコントロール係を配置しなければならない。コントロール係の数と配置は、選手、コーチ、その他役員へ知らせないで決定する。各ポイントに配置されたコントロール係は、競技者の違反や通過を記録する。その際、ビデオ録画を利用しても良い。競技終了後は、コントロール・保安係長に規則違反をすべて報告し、ジュリーへ証言しなければならない。

302.3.7 報道係長は、メディア・エリアとミックス・ゾーンにおいて、報道関係者、各種メーカーと競技役員にとって最適な作業環境を提供する責任がある。ミックス・ゾーンのレイアウト、カメラマン、ジャーナリスト、解説者等の配置決定も含む。そして、プレス会議場や報道に係わる通信設備を提供しなければならない。また、新聞、ラジオ、TVなどに対して適切な情報を流すことやスタジアム内の放送設備の円滑な運営に責任がある。

302.3.8 医事・救護係長は、治療及び応急処置全般の調整・取りまとめと、近接する医療機関へ患者を速やかに搬送する責任を負う。

救護、及び医療サービスは選手のトレーニング中にも行える状態にしておかなければならない。

医療サポートの要件等の詳細は、医療規則とガイドラインを含む FIS メディカル・ガイドの第1章に示されている。

303 **ジュリーとその任務** (The Jury and its Duties)

303.1 **ジュリー・メンバー** (Members of the Jury)

303.1.1 冬季オリンピック大会（OWG）及び世界スキー選手権大会（WSC）では、次の役員が
ジュリーの任務に付く。

- TD、ジュリーの長を務める（FIS 指名）
- ATD（FIS 指名）
- 競技委員長
- 開催国以外から選出された2名のメンバー（FIS 指名）
- FIS レース・ディレクター（FIS 指名）

上記の役員は、FIS クロスカントリー委員会の推薦を受け FIS 理事会により任命
される。

303.1.2 WCでは、ジュリーは以下のように構成される。

- TD（FIS 指名）
- ATD（FIS 指名）
- FIS レース・ディレクター（FIS 指名）
- 競技委員長
- NATD（FIS 地域 TD コーディネーターと相談の上、開催国スキー連盟が
指名する）

303.1.3 JWSCではジュリーは以下のように構成される。

- TD（FIS 指名）
- ATD（FIS 指名）
- 指名ジュリー1名（FIS 指名）
- 競技委員長
- NATD（地域 TD コーディネーターと相談の上、開催国スキー連盟が指名
する）

303.1.4 COC 及び FIS 大会では、次の役員がジュリー・メンバーとなる。

- TD、ジュリーの長を務める（FIS 指名）
- 競技委員長
- 開催国のスキー連盟に指名された NATD（地域 TD コーディネーターと相
談の上、開催国スキー連盟が指名する）

全日本選手権大会と SAJ A級公認大会において、ジュリー5名編成の大会では
以下の役員がジュリーの任務につく。

- TD、ジュリーの長を務める（SAJ 指名）、
- ATD（SAJ 指名）、

- 競技委員長、
- SAJ 指名ジュリー2名 (SAJ 指名)

SAJ A級公認大会において、ジュリー3名編成の大会では、以下の役員がジュリーの任務につく。

- TD、ジュリーの長を務める (SAJ 指名)、
- ATD (SAJ 指名)、
- 競技委員長、

SAJ B級公認大会では、以下の役員がジュリーの任務につく。

- TD、ジュリーの長を務める (SAJ 指名)、
- 競技委員長、
- ATD (主催スキー連盟が指名する)、

303.2 WC、WSC、OWG、JWSC、COC と FIS 大会における TD と ATD の任務 (The Role of the Technical Delegate and Assistant Technical Delegate at WC,WSC,OWG,JWSC,COC and FIS Competitions)

303.2.1 権 限 (Authority)

TD は、大会組織者に対しては FIS/SAJ の代表者であり、FIS/SAJ に対しては、FIS/SAJ 規則に沿った競技運営がされていることを保証する保証人である。TD は、有効な TD ライセンスを所有していなければならない。TD は、競技の準備中、開催中、及び終了後の事後処理において、FIS/SAJ 指名の ATD 及び開催国スキー連盟/主催スキー連盟指名の ATD を指揮する責任がある。また、ジュリーの業務をまとめる責任を負う。

303.2.2 任 命 (Appointment)

- 303.2.2.1 OWG、WSC、WC 及び JWSC 大会の TD、ATD、他のジュリー・メンバーは、FIS クロスカントリー TD 資格を保有していなければならない。
全日本スキー選手権並びに SAJ 公認大会の TD、ATD、ジュリー・メンバーは、SAJ クロスカントリー TD 資格を保有していなければならない。

- 303.2.2.2 OWG、WSC 及び WC の大会の TD、ATD は、開催国以外から派遣された者でなければならない。その他の国際競技大会では開催国内から指名されてもよい。FIS カレンダーに定期的に記載されている大会では、最低4年に1度は開催国以外から TD が任命される。

全日本選手権大会、及びSAJ公認大会のTD、ATD、及びジュリー・メンバーはSAJから指名される。

303.2.2.3 OWG、WSC、JWSC及びWC大会のTD及びATDは、FISクロスカントリー委員会（CCC）によって任命される。OWG及びWSCの場合、FISクロスカントリー委員会が指名したTDは、FIS理事会の承認をもって決定する。他の国際競技大会の場合、TDは、FISルール&コントロール小委員会によって任命される。JWSC、WC、COC及びFIS大会では、FIS指名TDの指揮下に置かれるNATDを、開催国内より指名しなければならない。

全日本選手権大会及びSAJ公認大会のTD、ATD、ジュリー・メンバーは、クロスカントリー技術・運営委員会が指名し、SAJ理事会の承認をもって決定する。

303.2.2.4 各国チームの責任者を、OWG、WSC、JWSC及びWCのTDやジュリー・メンバーとして指名することは認められない。

303.3 ジュリーの任務（Duties of the Jury）

303.3.1 ジュリーは、FIS/SAJルールに従って競技が組織され運営されるようにしなければならない。ジュリーとしての責務は、指名を受けた時点で始まり、最終競技の抗議に対する決断が下され、公式成績が作成された時点で終了する。一回目のジュリー・ミーティングは、初回公式トレーニングの前に開催しなければならない。

303.3.2 ジュリーは、次の点を明確にし、決定しなければならない。

- 競技の延期、中断、又は中止するか。
- 遅延エントリー、及び代替選手のエントリーを受け付けるか。
- 抗議を受け付けるか、制裁又は失格の発表をするかどうか。
- 選手やコーチに対して制裁を加えるかどうか。
- スタート順を変更するか、更に特殊な場合のスタート方法を変更するか。
- FISルールに定められていない事柄についてどのように対応するか。

303.3.3 競技会場において、特に公式トレーニング及び競技中は、投票権のある各ジュリー・メンバーは、口頭による戒告や現行の大会に有効な資格認定を取り下げる権限を持つ。

303.3.4 ジュリーの下した決断はすべて、投票の過半数をもって可決されるものとする。

同数の場合は議長（TD）が決定する。

303.4 競技前及び競技中のジュリーの任務（Jury Duties before and during the Competition）

303.4.1 全てのジュリー・メンバーは、オフィシャル・トレーニング前に開催地に到着し、トレーニング及び競技会に向けた準備が適切に行われているかどうかを確認し、必要な場合は競技開始前に改善するよう勧告しなければならない。

TDは、ジュリーの全ての任務を成し遂げられこと、又それぞれのジュリー・メンバーの能力と経験に見合った職務分担を行う責任がある。

ジュリー・メンバーはコースをスキーで滑ることができ、コース準備についての判断ができなければならない。

303.4.2 開催地に着く前のジュリーの任務

- 招待状（競技会開催要項）の確認
- 競技プログラムの確認
- エントリーと資格問題の確認
- コースとスタジアム設営計画の確認
- 雪の状況把握、悪雪など悪条件になった場合の対応策の策定
- 開催地の視察（FIS/SAJ クロスカントリー委員会の指示がある場合）

303.4.3 競技開始前の会場におけるジュリーの任務

- 損害賠償保険契約の確認（ICR 212.2）
- コース：
コース公認書類の確認、準備（雪の状態、グルーミング、グルーミング器具、フォア・ランナー、巡察、極度な気象状況下の対応策）、コース標識、安全対策、コーチ立ち入り許可（コーチ・エリア）及び不許可エリア（ノー・コーチ・エリア）、給水所、スノーモービル専用路（該当する場合）が適切に準備されているか、の確認。
- チーム・エリア：
ワックシング設備、スキーテスト・エリア、ウォーム・アップ・コースの確認。
- スタジアム：
スタジアム内の詳細な計画、標識設置、フェンス設置、設備機材全般、インフォメーション掲示版の設置場所、通信・放送機材の確認。

- 医療サービス：
救護所、救護計画、ドーピング・コントロール（施設、シャペロン）の確認。
- チーム宿泊：
ホテルの水準、会場へのアクセス、宿泊費、食事の取決めと質の確認。
- レース・オフィス：
位置、組織、備品、開所時間、チームへのインフォメーション、用紙、リスト（FIS ポイント、カップ・スタンディング、書面戒告）、エントリー（資格、出場枠、FIS コード、グループ分け、その時々に応じて）の確認。
- チーム・キャプテン・ミーティング：
場所、日程、ミーティング・ルーム内の設備、飲み物軽食、議題、プレゼンテーション、チームへの情報、テスト・ドロー（必要に応じて）の確認、及び必要に応じて話し合われた事項について決定する。
- 計時：
スタートとフィニッシュの手順、写真判定、主動計時、バックアップ計時、データ処理、スタート・リストとオフィシャル・リザルト・リストの記載事項と様式、FIS へ XML データで送信の確認。
- 競技管理：
掲示、テクニク違反、競技用具、競技進行、適用するならスキー・マーキングの確認。
- ジュリー：
作業環境、身分証明書、ジュリー間、及び他の役員との通信連絡方法の確認。
- セレモニー：
日程、表彰式、セレモニーの手順確認。
- メディア（該当する場合）：
プレスセンター、メディア・インフォメーション、報道者会議全般の確認。
- セキュリティ：
認可システム、身分証明書、進入可能区域とその出入りの管理
- 交通全般の確認。

303.4.4 競技中のジュリーの任務

- 全てのジュリー・メンバーは、最初の競技開始の2時間前には競技会場にいなければならない。

- スケジュール通り競技を開始できるかの確認（スタジアムとコースの準備、気象状況、出場チームが競技場に居るか）。
- 代替選手と遅延エントリーの確認。
- 必要に応じ、コース上でのウォーム・アップとスキー・テストの手順変更をする。
- 必要に応じ、コースの再グルーミング、フォア・ランナーの時間調整、必要ならスノー・パトロールの活用を決定する。
- ジュリー決議事項を各チームへ通知する。
- 競技運営の監督
- ICR207（広告とコマーシャル・マーケティング）を含む全ての違反、及び遅延スタート（不可抗力が理由の場合）について対処法を決定する。
- 有効な抗議に対する判断を下す。
- 上訴がある場合に備え、ジュリーの議決はその証拠と共に全て書面化する。
- タイムとリザルトの確認、レース・ペナルティー・ポイントの計算、オフィシャル・リザルトを発表する。
- オフィシャル・リザルトが FIS ウェブ・サイトに公表されたか、確認する。
- TD は、競技後 3 日以内に TD レポートを作成し送付しなければならない

304 費用の支給 (Reimbursement of Expenses)

304.1 開催者の義務 (Requirements of the Organizers)

304.1.1 競技役員は、旅費（高速料金を含む）の払い戻しを受ける権利がある。同様に任命された期間中の宿泊料金と食事代を受ける権利がある。この規定は、競技への出張旅行（列車＝ファーストクラス、長距離航空運賃＝ツーリストクラス、又は 1 キロあたり運賃 0.70 スイスフランか同等の支払い）と同様に予め承認されている会場視察にも適用される。更に、移動にかかった日数と、委嘱されて任務に就いた合計日数分の日当が、1 日あたり 100 スイスフラン支払われる。報告書の郵送代金も含まれる。二重請求（例えば、最終レース日と同日に帰宅した場合）は認められない。往復の移動中に宿泊が必要な場合、正当なものと認められれば、別途その宿泊代も払い戻される。正当な理由付けをし経費は分けて請求しなければならない。

自家用を利用した場合の支払い最高額は、航空運賃エコノミークラスの金額を超えることはできない。

SAJ 公認大会では、SAJ の指導に従う。

- 304.1.2 上記の払い戻しは、次の通り行う：
- OWG、WSC 及び JWSC に関しては、特別規則が適用される。
 - WC では TD、外国からの ATD、及び国内で指名された NATD に対して適用される。
 - 他の国際競技大会では、TD、及び国内で指名された NATD に適用される。

305 チーム・キャプテン・ミーティング (Team Captains' Meeting)

305.1 手順 (Procedure)

305.1.1 各レースの前日にチーム・キャプテン・ミーティングを行う。

307.1.2 チーム・キャプテン・ミーティングの日時、及び場所は、大会プログラム (ICR216 参照) に記述されていなければならない。ジュリーは、チーム・キャプテン・ミーティングに出席する各チーム代表者の人数と何人の役員を出席させるかを定める。

全日本選手権大会では各チーム1名とする。

305.1.3 OWG、WSC、WC、及び JWSC 大会では、出席するチームの座席を表示しなければならない。

305.1.4 OWG、WSC、WC、及び JWSC 大会では、チーム・キャプテン・ミーティングは英語と、場合によっては開催国の母国語で行う。その際、補助のための通訳を用意すること。

305.1.5 競技委員長が、チーム・キャプテン・ミーティングの議長を務める。

305.1.6 チーム・キャプテン・ミーティング中、参加チームからジュリーへ提案がある場合、参加チームによる多数決で提案するか否かを決定する。
各チームは1票とする。

305.1.7 必要に応じてジュリーは同ミーティングを中断し、提案内容について決定を下した後、同ミーティングを再開して、結果を参加チームへ報告する (ICR303.2.2 参照)。

305.2 アジェンダ (Agenda)

305.2.1 各チームにチーム・キャプテン・ミーティング用のアジェンダを配布すること。

このアジェンダは、競技セクレタリーが競技委員長、及びジュリーとの協力の下に準備する。

305.2.2 すべての国際大会において、通常次の項目がアジェンダに含まれる；

- 点呼
- 組織委員会メンバーの紹介
- ジュリーの紹介、必要であればジュリーの任命
- 天気予報
- 選手のエントリー、又はグループ分けのチェック
- ドロー又はスタート・リストの作成
- スタジアムの説明（入口、スキー・マーキング（行う場合）、スタート・フィニッシュ・リレーの中継ゾーン、出口、更衣テント等）
- コースの説明（入口、プロフィール、中間計時の場所、給食、保安関連、コース標識等）
- コースの準備状況
- スキー・テストのための時間、場所、及び規則
- トレーニングの時間とコース
- TDからの一般情報
- 大会主催者からの一般情報
- FIS レース・ディレクター（RD）からの一般情報

305.2.3 チーム・キャプテン・ミーティングで議論されたすべての内容や勧告、ジュリーの決定事項を議事録にまとめておかなければならない。

B. クロスカントリー競技 (The Cross-Country Competition)

310 競技フォーマットとプログラム (Competition Formats and programs)

310.1 競技の距離とコースの長さ (Table for Distances and Course Lengths)

競技フォーマット	競技距離 (km)	コースの長さ (k m)
インターバル・スタート	5,7.5,10,15,30,50	2.5,3.3,3.75,5,7.5,8.3,10,12.5,15,16.7
マス・スタート	10,15,30,50	2.5,3.3,3.75,5,7.5,8.3,10
ポピュラー競技	制限なし	制限なし
スキーアスロン	5+5,7.5+7.5,10+10 15+15	2.5,3.3,3.75,5,7.5,10

パーシュート (後半)	5,7.5,10,15	2.5,3.3,3.75,5,7.5,10
リレー (1 チーム 3~4 名、男女混合も含む)	2.5,3.3,5,7.5,10	2.5,3.3,3.75,5
個人スプリント男子	1~1.8	0.5~1.8
個人スプリント女子	0.8~1.6	0.4~1.6
チーム・スプリント男子	2×(3-6) × 1~1.8	0.5~1.8
チーム・スプリント女子	2×(3-6) × 0.8~1.6	0.4~1.6

この表は複数周回するレースを運営するのに有効であるが、周回数が多く短いコースを選択する場合は、全体の距離、スタート形式、及びコース幅を考慮しなければならない。

個人スプリント競技とチーム・スプリント競技は 1 周又はそれ以上の周回で行っても良い。

310.2 技術定義 (Technique Definitions)

310.2.1 クラシカル・テクニク (Classical Technique=C)

310.2.1.1 クラシカル・テクニクに含まれるものとして、ダイアゴナル、ダブル・ポール、グライドを伴わない開脚登行、滑降、ターン技術が挙げられる。

310.2.1.2 スケーティングは、シングル、ダブルいずれも認められない。

310.2.1.3 ターンは、方向転換のためのステップとプッシュで構成されるものとする。トラックが設けられている箇所で、プッシュを伴うターン・テクニクは認められない。それは、トラックが設けられている箇所の外側を滑走する選手にもこのルールは適用される。

310.2.2 フリー・テクニク (Free Technique=F)

フリー・テクニクには、すべてのクロスカントリー・スキー・テクニクが含まれる。

310.3 OWG、WSC、JWSC、WC、及び FIS/SAJ 公認大会用プログラム (The Programmes for OWG,WSC,JWSC,WC and FIS Competitions)

310.3.1 原則として、WC では毎年 2 つのテクニクのレースを均等に行う。OWG、WSC、JWSC も同様とする。

310.3.2 OWG と WSC (OWG and WSC)

310.3.2.1 OWG と WSC の大会プログラムは以下の通り：

競技フォーマット	男子	女子
インターバル・スタート競技	15Km C/F	10Km C/F
マス・スタート競技	50Km C/F	30Km C/F
スキーアスロン	15KmC－15KmF	7.5KmC－7.5KmF
リレー競技	4×10 Km C/F	4× 5Km C/F
個人スプリント	1.0 Km－1.8KmC/F	0.8Km－1.6KmC/F
チーム・スプリント	1.0 Km－1.8KmC/F	0.8Km－1.6KmC/F

注意：テクニック (C/F) について：個人スプリント、チーム・スプリント競技、インターバル・スタート競技、マス・スタート競技、のテクニック (C/F) は、例えば、OWG で15KmC なら WSC では15KmF という具合に OWG と WSC ごとに交互に実施される。

全日本スキー選手権はこの規定に準じ、毎年テクニック (C/F) を変えて実施する。

WSC と比べて OWG の競技日数が長いからという理由であれば、プログラムの構成を変更しても良い。その際に考慮されるべき最大の要素はTV放映である。

スキーアスロンは、常に前半をクラシカル・テクニックで後半をフリー・テクニックで実施する。

リレーは最初の 2 区間をクラシカル・テクニックで、残りの区間をフリー・テクニックで走るものとする。

310.3.2.2 WSC では、女子は FIS ポイント 120 点、男子は 90 点を超える選手の予選を行う。予選においてトップ 10 に入った選手は、自国の出場枠の一員として WSC のインターバル・スタートの競技に出場することが出来る。

310.3.3 WC (WC)

ワールド・カップ・シーズンのためのプログラムは、毎年 FIS によって決定される。レース距離とテクニックについては毎年決められる。クロスカンントリー・スポーツのさらなる発展を促すため、テスト・レースを WC プログラムに組み込むことは可能であり、ロング・ディスタンス・レースを含むこともできる。

310.3.4 JWSC (JWSC)

JWSC 大会における競技フォーマット、距離、及びテクニックは次の通り：

競技フォーマット	女子	男子
インターバル・スタート	5Km F *	10Km F *
スキーアスロン	5KmC+5Km F	10KmC+10KmF
スプリント	0.8-1.6KmC *	1-1.8KmC *
リレー	4×3.3KmC/F	4×5KmC/F

*インターバル・スタート、及びスプリント競技は、毎年テクニックが替わる。

310.3.5 アンダー23世界選手権 (U23WSC)

競技フォーマット	女子	男子
インターバル・スタート	10Km F *	15Km F *
スキーアスロン	7.5KmC+7.5Km F	15KmC+15KmF
スプリント	0.8-1.6KmC *	1-1.8KmC *

*インターバル・スタート、及びスプリント競技は、毎年テクニックが替わる。

311 クロスカンントリー競技コース (Cross-Country Competition Courses)

311.1 基本的な特徴 (Fundamental Characteristics)

311.1.1 クロスカンントリーのコースは、競技者の技術的、戦術的、及び体力的な能力をテストできるように設定されなければならない。コースの難易度は、競技のレベルと一致するべきである。単調さを避けるため、コースには起伏や登り下りの部分を設けるなど、できるだけ自然に近い形で設計されなければならない。競技者のリズムを狂わせるような急なカーブやきつ過ぎる登りなどは極力避けること。下りコースは、競技者にとってチャレンジとなるようなものであると同時に、アイスバーンなど高速になる条件下でもスキーが可能なものでなければならない。

311.1.2 原則として、クロスカンントリー・コースは、次のように設定される：

- コースの3分の1は、標高差 10m以上、傾斜9% (1:11) から 18% (1:5.5) 、それに若干の 18%を超える急な開脚登りを含む登り部分とする。
- コースの3分の1は、短い登り下り (標高差1~9m) を含む、あらゆる地形の特徴を活用した小さな起伏部分とする。
- コースの3分の1は多様な滑降技術を要する変化に富んだ下り部分とする。

311.1.3 OWG、WSC、JWSC、WC、及びCOCにおけるクロスカントリー競技コースは、コース公認を受けたコースのみを使用する。

311.1.4 全参加チームのためのテスト用トラックを含むスキー滑走テスト・エリアは、スタジアムの近くに設けなければならない。これは同時に、各チームのワックス・キャビン、及びウォーム・アップ用トラックと近接していなければならない。テスト用トラックは、競技トラックと同基準で整備しなければならない。

312.1.5 ウォーム・アップ・コースは、可能な限りスタジアムの近くに設けなければならない。

311.2 コース公認 (The Homologation)

311.2.1 全ての FIS/SAJ クロスカントリー競技は、公認を受けたコースで実施されなければならない。公認手続きの詳細は、「FIS クロスカントリー公認マニュアル」に記載されている。

311.2.2 クロスカントリー・スポーツの振興を目的として開催される大会では、コース公認の基準を外れたコースを使用することも可能である。ただし、ルール&コントロール小委員会の承認が必要である。

311.2.3 大会主催者は、コース公認証と公認されたコース・マップのコピーを大会のTDへ提出しなければならない。コース・マップには縮尺度と北の方角を示す矢印が記載されていること。

311.2.4 定義 (Definitions)

311.2.4.1 HD (Height Difference=標高差) は、競技コースの最低地点と最高地点との標高の差である。

311.2.4.2 MC (Maximum Climb=極限登高) は、1つの登りにおける標高差 (PHD) が一番大きな登りの標高差を言う。ただし、途中で全長 200m未満の小さな起伏地 (アンジュレーション) 、及びPHD10m未満の下りを設けても良い。

311.2.4.3 TC (Total Climb=合計登高) は、競技コースの登りの標高差の累計を表す。

311.2.5 クロスカントリー・コース基準 (Norms for Cross-Country courses)
公認競技コースの HD (標高差) 、TC (合計登高) 、MC (極限登高) の基準は次のとおりである。

コースの長さ	HD (標高差)	MC (極限登高)	TC (合計登高)
スプリント F	最大 50m	0-30m	0-60m
スプリント C	最大 50m	10-30m	20-60m
2.5Km	最大 50m	30-50m	75-105m
3.3Km	最大 65m	30-65m	100-135m
3.75Km	最大 80m	30-80m	100-150m
5Km	最大100m	30-80m	150-210m
7.5Km	最大125m	30-80m	200-300m
8.3Km	最大125m	30-80m	210-350m
10Km	最大125m	30-80m	250-420m
15Km以上	最大150m	30-80m	400-600m

311.2.6 カテゴリー毎のコース幅 (Course width categories)

各競技種目のコースの幅は、次の表の通り：

カテゴリー	コース幅の最小値			競技
	登り	小さな起伏地	下り	
A	3m	3m	3m	インターバル・スタートC
B	4m	4m	4m	インターバル・スタートF リレーC
C	6m	6m	6m	マス・スタートC スキーアスロンC パーシュートC、スプリントC チーム・スプリントC

D	9m	9m	6m	マス・スタートF スキーアスロンF パーシュートF、スプリントF チーム・スプリントF
E	1 2 m	9m	9m	スキーアスロン (C、Fとも同じコース)

311.2.7 OWG、WSC、JWSC、及びWC大会におけるコースの標高は、最大で1,800mを超えてはならない。

311.2.8 COCとFISレベルの競技では、MCが最小25m、及び最高標高地点が1,800mを超えたコース、又はいずれか一方が基準を満たさないコースでも公認を受けることができる。

311.3 コースの準備 (Preparation of the Course)

311.3.1 シーズン前の準備 (Pre-Season Preparation)

コースの準備は、積雪量が少ない場合でも安全にスキーができるよう、冬になる前に準備をしておかなければならない。石の塊、小石、木の幹、切り株、小枝等取り除いておかなければならない。水はけの悪い部分があれば、改善しておかなければならない。夏季期間の準備は、大会開催時に約30cmの積雪が有れば開催できるよう考慮して行う。特に下り及びカーブのバンク部分の準備には注意を払わなければならない。

311.3.2 一般的な準備 (General Preparation for the competition)

311.3.2.1 コースは機器類を利用し、完璧に仕上げなければならない。重機を使用する場合は、できるかぎり自然の起伏を保つため、元の地形を損なわないように注意する。

311.3.2.2 コースは、公認マニュアルが推奨するコース幅で、競技大会の競技フォーマットに則って準備しなければならない (ICR300 C 参照)。コースは選手が支障なくスキーをし通過できるようにしなければならない。コースが坂を横切っている場所では、適切な整備ができるよう、十分な幅を確保しなければならない。

- 311.3.2.3 コース、及びウォーム・アップ用トラックは公式トレーニングの開始前に完全に準備され、適切な標識、及びキロ表示板が設置されていなければならない。テスト用トラックも、競技用コースと同様の準備をしなければならない。
- 311.3.2.4 選手全員が競技中に平等な状況で競技ができるように保障されなければならない。降雪時や強風時に、コースを一定のよい状態に維持するため、十分な数の力量のある前走者、又は、専用器具を備えた巡察隊を活用できるように編成しておかなければならない。行動計画はジュリーと協力して、予め建てておかなければならない。
- 311.3.2.5 滑りを良くするためのあらゆる人工的手段は認められない。特別な場合のみ、雪の表面が軟らかくなるのを防ぐために化学物質の使用が許される。
- 311.3.3 クラシカル・テクニクのための準備 (Preparation for Classical Technique)
- 311.3.3.1 トラックの数は、コースの長さ・幅・プロフィール、そして競技フォーマットと一致するように、ジュリーにより決められる (ICR300 条台 C 参照)。
- 311.3.3.2 トラックは、競技コース上の理想的なスキー・ラインに沿って設定しなければならない。トラックはカーブ以外では、通常コースの中央部分に設定される。
- 311.3.3.3 カーブでは、設定されたトラック内をスムーズに滑れる場所のみトラックを設ける。カーブが鋭角すぎる場所やスピードが出過ぎてトラックに留まれないような所には、トラックを設定しない。カーブのトラックは、選手がトラックとフェンスの間に滑り込むのを避けるため、フェンスの近くに設定しなければならない。
- 311.3.3.4 適切なコース準備とトラック設定の判断は、優秀な競技者が出しえる最大スピードを考慮して行わなければならない。
- 311.3.3.5 スキー・トラックは、ビンディングの一部がぶつかってスピード・ダウンしたりせず、スキーをコントロールし滑走できるように準備しなければならない。
1セット左右2本のトラックの間隔は、中心から中心までの間隔を 17-30 cm とする。トラックの深さは硬く凍り付いた雪の場合でも 2-5 cm とする。
- 311.3.3.6 2トラック (2セット) 以上のトラックを設定する場所は、トラックの中央と中央 (2本のトラックの中央と中央) の間隔を最小 1.2m とする。

- 311.3.4 フリー・テクニクのための準備 (Preparation for Free Technique)
- 311.3.4.1 コースは、コース幅全体を良く固めなければならない。
コース幅は競技フォーマットに適合していなければならない (ICR300 条台 C を参照)。
- 311.3.4.2 ジュリーは、下りのトラック設定について、設定する下りとどのように設定するかを決める。
- 311.4 コース標識の設置 (Marking the Course)**
- 311.4.1 コース標識は、選手がいかなる瞬間にもコースの方向に疑問を抱くことがないよう、明確なものでなければならない。OWG、及び WSC では、コース毎のカラーを決めコースに標識を設置する。
- 311.4.2 キロ標識は、コースの累積距離を表示するものである。
- 311.4.3 コースの分岐点や交差点には標識を立て、進行方向を明確に認識できるようにしなければならない。又、コース内の使用しない部分はフェンスや V ボードで遮断しなければならない。
- 311.5 給食所 (Refreshment Stations)**
- 311.5.1 組織委員会は、最低でもフィニッシュ・エリアに給水所を設けなければならない。
- 311.5.2 ジュリーは、コース上の給食の場所と制限を決める。
- 311.6 コースの防護 (Course Protection)**
- 311.6.1 OWG、WSC、JWSC、及び WC において、観客が競技を妨害する可能性のある場所には全て、コースの両側をフェンスで囲わなければならない。
- 311.7 トレーニングとコース視察 (Training and Inspection of the Course)**
- 311.7.1 選手とチーム関係者には、競技当日と同様の状態に整備されたコースでのトレーニング、及びコース視察の機会が与えられなければならない。可能であれば、競技前の 2 日間はコースを開放すること。特殊な状況下であれば、ジュリーはコースを閉鎖するか、コースの一部又は一定時間の使用を制限することができる。

3 1 2 クロスカントリー・スタジアム (The Cross-Country Stadium)

312.1 スタジアム・エリア (Stadium Area)

312.1.1 クロスカントリー・スタジアムには、適切に設計されたスタート、及びフィニッシュ・エリアを設けなければならない。

312.1.2 スタジアムは機能別に区分けされ、必要に応じてゲート、フェンス、セクション標識などを用いて管理できるように設計されなければならない。

次の事項に留意して準備しなければならない：

- 選手が支障なく数回通過できる。
- 選手、役員、報道関係者、サービス・スタッフ、観客等が容易にそれぞれの目的とする区域に移動できる。
- 全ての競技フォーマットで競技を実施するだけの十分なスペースがある。

312.2 スタート・ゾーン(Start Zone)

312.2.1 スタート・ラインから 50 m の区間は、スタート・ゾーンである。このゾーンは、コリドーで分けたり、クラシカル用トラックを設けたりすることができる。コリドーの数、幅、及び長さは、ジュリーが競技フォーマット (ICR300 C を参照) とスタジアムのレイアウトに応じて決める。

312.2.2 スタート位置は、競技フォーマット (ICR300 条台 C を参照) に則り設定される。

312.3 フィニッシュ・ゾーン (Finish Zone)

312.3.1 最後の直線 50~100m の区間はフィニッシュ・ゾーンである。このゾーンは通常フィニッシュ・コリドーとして分割される。このゾーンは判りやすくマーキングしなければならない。しかし、マーキングがスキー走行の妨げにならないようにしなければならない。コリドーの数、幅、及び長さは、ジュリーが競技フォーマット (ICR300 C を参照) と競技会場のレイアウトに応じて決める。

312.3.2 フィニッシュ・ラインはカラー線ではっきりとマークしなければならない。フィニッシュ・ラインの幅は最大で 10cm である。

312.3.3 コントロール・ラインは、フィニッシュ・ラインから 10~15m 離れた地点に設定する。選手はコントロール・ラインを超えるまで、スキーを外してはならない (206.5 条)。違反行為はジュリーに報告される。

312.4 中継ゾーン (Exchange zone)

312.4.1 チーム競技における中継ゾーンは、十分な幅と長さがなければならない。判り易くはっきりと標示され、スタジアム内の平坦地、又は整備された緩やかな斜面でなければならない。

312.4.2 中継ゾーンの長さとは幅は、競技フォーマットと (ICR300 条台参照) とスタジアム内の使用可能なスペースを考慮して決めなければならない。

312.5 ピット・ボックス (Pit boxes)

スキー交換が認められている場合、各選手のビブ・ナンバーが表示された指定ピット・ボックスが設置される。ピット・ボックス・エリアの出口は不法妨害の可能性を最小限になるよう設計されなければならない。スルー・レーンは、ピット・ボックスを利用しない選手が、最短距離でピット・ボックス・エリアを通過できるように設定しなければならない。

312.6 作業環境 (Working Conditions)

312.6.1 競技役員、ジュリー・メンバー、コーチ、報道関係者、及びサービス・スタッフそれぞれの作業内容に応じた適切な作業環境をスタジアム内に設けなければならない。そのことで、スタートやフィニッシュの妨げにならずに作業ができる。これらの人達のスタジアムへの出入りには許可証が必要である。

312.6.2 計時計算室は、スタート、及びフィニッシュをよく見渡すことのできる建物の中に設置する。

312.6.3 OWG、WSC、JWSC、WC、及びCOCでは、スタジアムの良く見えるスタジアム近くに、FIS/SAJ 役員とジュリー・メンバー用の部屋を用意しなければならない。

312.6.4 競技エリアの近くに、暖房設備の整った医務室を用意しなければならない。

312.7 その他の施設 (Additional Facilities)

312.7.1 OWG、WSC、JWSC、及びWC大会では、スタジアムのすぐ近くに立ち入りが制限された (フェンス設置や係員配置)、ワックス・キャビンとワックス・トラック用のスペースを含むチームの準備エリアを設けなければならない。キャビンは暖房設備が完備され、強制換気システムを使い換気をよくしなければならない。

OWG、WSC、JWSC、及びWCにおいては、付則として施行する。

- 312.7.2 スタジアムの近くに選手用のトイレと洗面所を設けなければならない。
その場所は、スタート・エリアから容易に行ける場所でなければならない。

312.8 公式告知及び情報掲示板 (Current Information Facilities)

- 312.8.1 リザルト、組織委員会やジュリーからの重要な通知や雪温、気温を含む気象状況を確認できる掲示板は、スタジアム付近とワックス・キャビン付近に、設置しなければならない。

次の時間に、気温および雪温を表示しなければならない：

競技開始2時間前、1時間前、30分前、競技開始時、競技開始後30分、
1時間後

- 312.8.2 気温観測は、競技場エリア内と極端な温度が予想される場所（コースの最低地点および最高地点）で行わなければならない。

- 312.8.3 競技情報とその他重要な情報については、場内放送を使って知らせなければならない。

- 312.8.4 国際大会では、外国からの選手、トレーナー、観客への情報提供は、英語を使用しなければならない。

3 1 3 大会主催者用公式エントリー (Official Entries for the Organiser)

313.1 手続き (Procedure)

- 313.1.1 FIS 公式エントリー・フォームは、主催者により全ての関係国へ電子的に、或いは書面で送られなければならない。同様に、オンライン登録手続き方式も提供されなければならない。

- 313.1.2 オンライン登録手続きの場合もまた、FIS 公式エントリー・フォームに示された最小限必要な必須データは含まれていなければならない。

- 313.1.3 WC のエントリー手順は、FIS クロスカントリー委員会が決定する。

313.2 公式エントリーの受理 (Receiving Official Entry Information for a Specific Competition)

- 313.2.1 公式エントリー、及びグループ分けの申請用紙（必要がある場合）は、チーム・キャプテン・ミーティングが開かれる遅くとも2時間前までに、競技セクレタリーが受理し、点検しなければならない。
- 313.2.2 スタート順を決めるためにグループ分けを行う場合は、競技セクレタリーは他に特別な指示がなければ選手を各グループに割り振るため、エントリー用紙に記載されているランキングを用いてグループ分けを行なう。
- 313.2.3 スタート順を FIS ポイントにより決める場合は、競技セクレタリーは、有効なポイント・リストに基づき出場全選手のポイントを収集し、リストを編集しなければならない。
- 313.3 遅延エントリー (Late Entries)**
- 313.3.1 遅延エントリーは、ドロー前ならジュリーの判断により認めることができる。
- 313.3.2 ドロー後の遅延エントリーは認められない。
- 313.4 選手交代 (Substitution)**
- 313.4.1 ドロー後に選手が不可抗力（怪我、病気など）の為にスタートできない場合、ジュリーが許可すれば、代替選手のエントリーが認められる。医師により事故が認定（証明）されれば、ジュリーはスタート前の2時間前なら選手交代を許可することができる。
- 313.4.2 ウォーム・アップ中に事故があった場合には、大会組織委員会の医事・救護係長へ事故報告がされ事故が認定されれば、ジュリーはスタート前の2時間前を切っけていても選手交代を許可することができる。
- 313.4.3 出場を取り消した選手がドーピング検査に選ばれていた場合には、検査を受けなければならない。代替選手もまた、ドーピング検査を受けなければならない。もし、出場を取り消した選手の検査が陽性を示した場合、代替選手の出場は認められない。
- 313.4.4 代替選手のスタート順（位置）は、ICR セクション C “競技フォーマット” に従う。

313.4.5 スタート・リストに記載されているにもかかわらず、病気等の理由で出場不可能となった選手については、チーム・キャプテンがスタート時間 30 分前までに競技セクレタリーに届けなければならない。その選手が、ドーピング検査の対象に選ばれている場合は、予定通り検査を受けなければならない。

313.5 グループ分け (Grouping)

313.5.1 スタート順を決める為にグループ分けを行う場合は、各チーム・キャプテンは、ドローの行われる 2 時間前までに、選手を各グループに均等に振り分けなければならない。1 カ国当たりの選手数がグループ数より多い場合、これらの余分の選手をチーム・キャプテンの選択により、1 グループにつき 1 名振り分けることができる。このルールは、選手数がグループ数より少ない場合にも適用される。

全日本選手権大会では、特別枠選手、都道府県予選通過選手、及び SAJ ポイント枠による出場者で構成され、SAJ ポイント表によりグループ分けを行う。

例

チーム名		グループ数			
		I	II	III	IV
チームA	8人エントリー	2	2	2	2
チームB	6人エントリー	1	2	1	2
チームC	3人エントリー	1	—	1	1

313.5.2 グループ数は、以下のよう to 決める：

- エントリー数 20 人以下 I と II の 2 グループ
- エントリー数 21～40 人 I、II、III の 3 グループ
- エントリー数 41 人以上 I、II、III、IV の 4 グループ

3 1 4 スタート順 (Starting Order)

314.1 原則 (Principles)

314.1.1 スタート・リストは、ドロー、ポイント・システム、WC ランキング、ステージ・イベント総合ランキング表、予選制度、或は他の方式を用いて作成する。

314.2 ドロー (Draw)

314.2.1 ドローは、マニュアル方式とコンピューター方式で行う。

314.2.2 ドローは、ランダム・ダブル・セレクション方式で実施される。

314.2.3 グループ分けによりスタート順を決める場合、グループ内のスター順は各グループごとにドローを行い決定する。
通常グループのスタート順は、グループⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順である。
ドロー中、選手のグループ変更はできない。

全日本選手権大会のインターバル・スタートでは、グループのスタート順はクラシカル、フリーともⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ（特枠含む）を原則とする。

314.2.4 競技が少なくとも1日以上延期された場合には、再度ドローを行わなければならない（ICR217.6参照）。

314.2.5 ジュリーの管理下であれば、チーム・キャプテン・ミーティングが開かれる前にドローを実施することができる。

314.3 マニュアル・ドロー (Manual Draw)

314.3.1 この方式では、各選手は自分が属するグループの選手数分用意された番号の中から、1つの番号を受け取る（例えば、グループに23人の選手がいる場合、このグループに属する選手は1から23までの、どれかの1つの番号を受け取る）。最初のランダム・セレクションで、1から23までの番号の中から1つの番号が引かれる。その一方で、そのグループに割り当てられたスタート番号も引かれる（例えば、選手が23人いるグループⅡの場合、そのグループに属する45から67のスタート番号を付け出場する）。この番号は、最初のランダム・セレクションで引かれた番号に対応させ、選手のスタート番号となる。いずれのランダム・セレクションでも、中が見えない箱や容器に入った、数字が書かれたボールを引く。ボールが引かれた後、その選手の名札は、最初は「グループ内の順番」を書いた掲示板から、「スタート順」を書いた掲示板へと移される。

314.4 コンピューター・ドロー (Computer Draw)

314.4.1 コンピューター式ドローでは、ジュリー・メンバー1名が立ち会い、その正当性を立証しなければならない。

314.4.2 この方式では、選手の氏名、及び選手が属するグループ名をコンピューターに入力する必要がある。入力後、少なくとも以下4つの情報がモニターに、表示される。

1. 登録された選手と選手が属するグループ内の選手数分の連続番号のリストがモニターに表示される。

2. これらの連続番号から任意の番号が1つ選ばれ、選手の氏名と一緒にモニターに表示される。
3. この選手のスタート番号が任意に選び出され、選手の氏名と一緒にモニターに表示される。
4. この選手のスタート順が反映されたリストがモニターに表示される。

314.5 ポイント・システムによるスタート順の決定 (Using a Point System to Determine the Starting Order)

- 314.5.1 スタート順は、FIS ポイント総合ポイント・リスト、ディスタンス・リスト、及びスプリント・リストに基づいて決定される。
- 314.5.2 各リストの有効性については、FIS ポイント・ルール、及びガイドラインを参照のこと。

314.6 シード・グループ (Seeded Group)

- 314.6.1 シード・グループは例外であり、エントリーした選手のベストの選手で構成される。シード・グループはFIS ポイント、有効カップ・ランキング表、或は有効ステージ・イベント・ランキング表に従い決める
全日本選手権は、この条項に準じて行う。

- 314.6.2 OWG、WSC、及びWC では、シード・グループは有効（現行の）WC ランキング表（デスタンス、或はスプリント）の上位30人の選手である、と規定する。もし、現行のWC 総合順位のトップ選手（WC オーバーオール・リーダー）が、シード・グループに含まれていない場合は追加される。男女共、ランキング30位以内の選手が出場しない場合、代替選手の出場は認められない。

- 314.6.3 シード・グループに属する全ての選手は、必ずシード・グループでスタートしなければならない。

- 314.6.4 シード・グループのスタート・ポジションは、競技ルールに則り、 Jury により各競技フォーマットに応じて決められる。原則として、シード・グループは最も有利な位置にしなければならない。

314.7 ビブ (Start Number)

- 314.7.1 デザイン (Design)
ビブは、前後いずれからも容易に識別でき、いかなる時も選手の動きの妨げにな

ってはならない。サイズ、形、着用方法の変更は認められない。大会主催者は機能的なビブを準備する責任がある。スプリント、ハンディキャップ・スタート、及びマス・スタート競技では、ナンバーを左右両脇にも印刷されたビブを着けなければならない。同様に他の競技種目に使用してもよい。

314.7.2 レッグ・ナンバー (Leg Numbers)

314.7.2.1 マス・スタート、スキーアスロン、パーシュート、個人スプリント競技では、フィニッシュ・ライン・カメラ（スリットビデオ・システム=デジタル写真判定装置）が一番捉えやすい選手の太腿にレッグ・ナンバーを付け（貼ら）なければならない。

314.7.2.2 チーム・スプリントとリレー競技では、フィニッシュする最終走者はフィニッシュ・ライン・カメラ（スリットビデオ・システム=デジタル写真判定装置）が一番捉えやすい選手の太腿にビブを付け（貼ら）なければならない。

3 1 5 スタートの手順 (Start Procedures)

315.1 スタートのタイプ (Types of Starts)

315.1.1 国際スキーカレンダーに記載されている大会は、インターバル・スタート、マス・スタート、ハンディキャップ・スタート、ヒート・スタートで実施される。

315.2 インターバル・スタートの手順 (Intervall Start Procedure)

315.2.1 インターバル・スタートは、通常 30 秒間隔で行われ、スプリントの予選ラウンドは 15 秒間隔で実施される。ジュリーは、スタート間隔の短縮、又は延長を認めることができる。

315.2.2 スタート合図はスタート 5 秒前から「5、4、3、2、1」とカウントし、それにスタートの合図の「ゴー」が続く。スタート合図は口頭、又ははっきり聞き取れる電子スタート音でもよい。

315.2.3 選手は、両足をスタート・ラインの後方に置き、静止してスタート係の合図を待つ。ただし、スキーポールは、スタート・ライン、又はスタート・ゲートの前方に置き、動かしてはならない。

315.2.4 選手は、スタート時間 3 秒前後の間であれば、いつスタートしても良い。3 秒より前にスタートした場合はフライング（不正スタート）である。3 秒より後にス

スタートした場合は遅延スタートであり、スタート・リストに記載されているスタート時間を使い所要タイムが計算される。

315.2.5 遅れてスタートする選手は、他の選手の邪魔になってはならない。

315.2.6 選手の遅延スタートの理由が不可抗力によるものとジュリーが認めた場合に備え、電子計時、手動計時にかかわらず、実際にスタートした時間を記録しておかなければならない。不可抗力と認められた場合は、実際にスタートした時間が正式なスタート時間となる。

315.3 マス・スタートの手順 (Mass Start Procedure)

315.3.1 マス・スタートは、矢じり形のスタート・ラインを使用して実施される。スタート位置は、ビブ・ナンバーが1番の選手が2番の選手より有利なスタート位置になるように位置する。各選手のスタート位置は一定の間隔で隔てられる。

ビブ・ナンバー1番の選手は中央のポジションに、偶数番号は1番の右側に、奇数番号は左側に位置する。スタート位置を示す番号札は、各選手のスタート位置(トラック)の右側か中央に設置しなければならない。

315.3.2 マス・スタートのスタート手順は、スタート合図の2分前に始まる。この時、スタート・コリドーに集合した全選手に向けて、スタートに関する指示が出される。各選手がそれぞれのスタート位置につくよう指定があり、“スタート1分前”が告げられ、次に“スタート30秒前”の通告がなされる。全ての選手が動かないで“静止”が確認でき次第、スタート合図が発せられる。

SAJ公認大会では、旗による合図でスタートを行っても良い。

315.4 ハンディキャップ・スタートの手順 (Handicap Start Procedure)

315.4.1 スタート順とタイム差によるスタート時間の間隔は前半の競技のリザルト、又は現行のステージ・イベントの総合ランキング表により決める。前半の競技のリザルトの10分の1秒は切り捨て、選手間のタイム差によりスタート・リストを作成する。

例；前半の競技リザルト

ランク	氏名	国名	所要時間
1	SVENSSON, Lars	SWE	25 : 12.9
2	ARKJANOW, Nikolai	RUS	25 : 14.2
3	KRECEK, Jan	CZE	25 : 21.7

後半の競技スタート・リストは、次の例のように作成する。

スタート順	氏名	国名	スタート時間
1	SVENSSON, Lars	SWE	0: 00
2	ARKJANOW, Nikolai	RUS	0: 02
3	KRECEK, Jan	CZE	0: 09

- 315.4.2 最初にスタートした選手が、遅くスタートした選手に追い越されることを避ける目的や競技を長引かせないために、ジュリーはスタート順の遅い選手を、マス・スタート、又はヒート・スタート方式でスタートさせても良い。ジュリーは、スタートする選手数を減らすこともできる。
- 315.4.3 ハンディキャップ・スタートは、電子スタート・ゲートを用いない。ジュリーがレース後、抗議、違反等の申し出により選手のスタート確認をする際に備え、全スタートをビデオ撮影しなければならない。
- 315.4.4 正確なスタートを保証するために各レーンには大きな表示時計を用意し、コリドー毎に選手のビブ・ナンバーとスタート時間を明示しなければならない。スタート地点は、2名以上の選手が並んでスタートできる幅に準備しなければならない。
- 315.5 ヒート・スタートの手順 (Heat Start Procedure)**
- 315.5.1 スタート・エリアには、スタート・ラインとスタート・ラインから1m離れた手前にプレ・スタート・ラインを設けなければならない。
- 315.5.2 ジュリーの承認があれば、電子式及び機械式の両方、又はどちらか一方のスタート・ゲートを使用してもよい。
- 315.5.3 選手はプレ・スタート・ライン上に集合し、指示を受ける。スターターの「位置について」の号令で、選手はスタート・ラインへ進み位置につく。選手全員が位置についたところで、スターターは“用意”と号令をかける。“用意”の号令後の選手は動かず静止していなければならない。用意の号令後2~5秒後でスタート合図をする。
- 315.5.4 スタート・ゲートを使わないスタートも上記と同じ原則と手順で行われる。

- 315.6** **スタート係の任務 (Duties of the Start Officials)**
- 315.6.1 スタート係は、全選手がそれぞれのスタート時間に、確実にスタートできるようにしなければならない。アシスタントは、スターターの近くに位置し、スタート時に違反があればその詳細を記録する責任を負う。
- 315.7** **不正スタートの対処法 (False Start Consequences)**
- 315.7.1 インターバル・スタートとハンディキャップ・スタート形式で行う競技では、フライング (定時より早い不正スタート) をした選手はスタート・ラインへ呼び戻されることはなく、そのままスタートさせる。フライングをした選手はジュリーへ報告される。
- 315.7.2 マス・スタート、又はヒート・スタート形式で行う競技では、フライングがあった場合は再スタートを行う。スターターは再スタートの合図 (スタート合図の後、2回目の合図をする) をし、選手がスタート・ラインに戻ることが可能な位置にアシスタントを配置しておかなければならない。
- 315.8** **スキー・マーキング (Marking of Skis)**
- 315.8.1 スキー・マーキングは、大会の統括団体から事前に要請されない限り実施しない。コントロールの目的のため実施する場合は、スタート前に両方のスキー板にマーキングを受ける。選手は、スタート・ビブを着け、決められた適切な時間内に公式マーキング所にて、自分自身でスキー・マーキングを受けなければならない。
- 315.9** **気温 (Temperature)**
- コース内の最も気温の低い地点で -20°C を下回った場合、競技はジュリーの裁定により延期、又は中止される。競技の実施が困難な気象状況 (例えば、強風、高湿度、豪雪、高温など) の場合、ジュリーは、参加チーム・キャプテン及び競技の医事・救護係長と協議の上、延期、又は中止するのかを決定する。
- 3 1 6** **計時 (Timing)**
- 316.1** FIS/SAJ カレンダーに載っている全ての競技大会では、電子計時装置を使用して計時を行わなければならない。その際、バックアップ・システムとして常に手動計時装置を併用し、両システム間の情報を照合しリザルトを確認しなければならない。
- 316.2** 電子計時装置が一時的に作動しない場合は、手動計時が有効となる。その際電子計時との平均時差を出して修正する。競技中に一部、又は全部にわたって電子計

時装置が作動しない時は、手動計時の記録が全選手に対して採用される。手動計時を用いて所要タイムの計算を行う場合は、実際にスタートした時間で計算しなければならない。

316.3 手動で計時をする場合は、選手の先行した靴のつま先がフィニッシュ・ラインを越えた瞬間に計時する。

316.4 電子計時 (Electronic Timing)

316.4.1 次の電子計時テクノロジーは、公式のフィニッシュ・タイムを取るために、使用できる（公式機器として使用可能）：

- 赤外線ビーム・システム、
光電管装置（投光器と受光器）設置は雪面より 25 cm の高さである。
- トランスポンダーによる自動計測システム。
- スリットビデオ・システム（デジタル写真判定装置）。

計測ポイントは、選手の先行の靴の先端がフィニッシュ・ラインに接触した瞬間である

316.5 競技者がフィニッシュ・ラインを横切る際に転倒した場合は、その競技者の体全体が外部からの援助を受けずに、フィニッシュ・ラインを越えた時、ICR316.3、及び 316.4 に従いフィニッシュ・タイムが計時される。

316.6 リザルト計算のため、スタート及びフィニッシュ・タイムは少なくとも 100 分の 1 秒 (0.01) 単位で記録される。各選手の所要タイムは、フィニッシュ・タイムからスタート・タイムを引いて算出する。最終リザルトに載せる各選手の記録は、100 分の 1 秒まで計算された所要タイムを、10 分の 1 秒 (0.1) に切り捨てて記載される。例えば、38 分 24 秒 38 の場合は 38 分 24 秒 3 となる。

316.7 OWG、WSC、JWSC、及び WC では、フォトフィニッシュ・カメラ（スリットビデオ・システム＝デジタル写真判定装置）を使用しなければならない。

316.8 フィニッシュ審判係は選手がフィニッシュ・ラインを通過した順位をリストに記録する責任を負う。フィニッシュ審判係はこのリストを計時計算係長に提出しなければならない。

3 1 7 リザルト (Results)

317.1 リザルト計算 (Calculations of Results)

- 317.1.1 スタートとフィニッシュの時間差を計算しリザルトとする。
ステージ・イベント・レースでは、各ステージの実際のタイム（公式タイム）、ボーナス・タイム、タイム・ペナルティーは累積される。
- 317.1.2 フォト・フィニッシュに持ち込まれた選手の順位は、先行した靴の先端がフィニッシュ・ラインを越えた順である。
- 317.2 リザルト発表（Publication of Results）**
- 317.2.1 非公式リザルトは発表の日時を記載し、競技終了後できる限り早急に公式掲示板に掲載しなければならない。
- 317.2.2 公式リザルト・リストには、選手の最終順位、FIS/SAJ コード、ビブ・ナンバー、タイム、中間タイム、並びにポイントが記載されていなければならない。
スキー・テクニク、エントリー数、出発棄権（DNS）、途中棄権（DNF）、失格（DSQ）となった選手の氏名、コース・データ：全長、標高差（HD）、極限登高（MC）、合計登高（TC）、天候、気温などのデータ、及びジュリー・メンバーの構成と氏名を記載しなければならない。
- 書式について、FIS 公式ウェブ・サイトの「クロスカントリースキー」にアクセスして確認するか、FIS ノルディック事務局に連絡するとよい。
- 317.2.3 ラテン文字を使用していない国でも、データやリザルトは、アルファベット（ラテン文字）を用いなければならない。
- 317.2.4 競技セクレタリーと TD は、公式リザルトに署名し、リザルト・リストが正しいことを証明する。

C. 競技フォーマット（Competition Formats）

- 3 2 1 インターバル・スタート競技（Interval Start Competitions）**
- 321.1 定義（Definition）**
インターバル・スタート競技では、各選手は決められた各自のスタート時間にスタートし、リザルトはフィニッシュとスタートのタイム差により決められる。
- 321.2 コースとスタジアムの準備（Courses and stadium preparation）**
- 321.2.1 推奨基準（Recommended Norms）

項 目	準備対象のテクニック	
	クラシカル・テクニック	フリー・テクニック
コース		
カテゴリー	A	B
クラシカル・トラック数	1 又は 2 トラック、ベストライン	/
トラック間の距離	最小 1.2m	/
スタート		
設定/準備	1 コリドー	1 コリドー
クラシカル・トラック	1	なし
トラックの長さ (スタート・ライン後)	スタート・ゾーンの終わりまで	/
トラック間 距離	/	/
フィニッシュ		
最小幅	4 m	9 m
コリドーの数	3 トラック	3 コリドー(各 3 m)
トラック間の距離	1.2 m	/

321.3 代替選手のエントリー (Entries – Substitution)

321.3.1 代替選手のエントリーは ICR313.4 に従う。

321.3.2 代替選手のスタート・ポジションは Jury が決める。

321.4 スタート順とスタート手順 (Starting Order and Start Procedure)

321.4.1 インターバル・スタートの手順は ICR315.2 を参照のこと。

321.5 計時とリザルト (Timing and results)

321.5.1 2 人以上の選手が同タイムの場合は同じ順位である。リザルト・リストにはスタート順に記載される (ICR219.2 参照)。

321.6 Jury と抗議 (Jury and protests)

特定の規定はない。

3 2 2 マス・スタート競技 (Mass Start Competitions)

322.1 定義 (Definition)

マス・スタート競技は全ての選手が一斉にスタートし、最終の順位は、フィニッシュに到着した順である。

322.2 コース及びスタジアム (Courses and stadium)

322.2.1 推奨基準 (Recommended Norms)

項目	準備対象のテクニック	
	クラシカル・テクニック	フリー・テクニック
コース		
カテゴリー	C	D
クラシカル・トラック	4トラック	／
トラック間の距離	最小 1.2m	／
スタート		
設定/準備	矢じり形スタート・グリッド	矢じり形スタート・グリッド
クラシカル・トラック	奇数 5 か 7	奇数 5 か 7
トラックの長さ (スタート・ライン後)	50 m から 100 m	30 m から 50 m
トラック間の距離	最小 1.2m	最小 1.2m
フィニッシュ		
最小幅	6 m	12 m
コリドーの数	少なくとも4トラック	少なくとも4コリドー(各3m)
トラック間の距離	1.2m	／

322.2.2 コース内で混雑の原因となる要素があつてはならない。全て取り除くこと。

322.2.3 スキー交換を許されているレースでは、スキー交換する選手の走る距離が、交換しない選手の走る距離より長くなるようにスタジアムの設営を行う。

322.3 代替選手のエントリー (Entries – Substitution)

322.3.1 代替選手のエントリーはICR313.4条に従う。

322.3.2 代替選手のスタート位置は、該当するレースのスタート順の決定方法に従い、ジュリーが決める。代替選手のスタート位置は、該当選手(ポイント・リスト上の)の直前直後の選手と選手の間スタート・ラインからとする。

- 322.3.3 代替選手は交代する選手のビブをそのまま引き継いで着用する。
- 322.3.4 出場しない選手（最初の選手）のスタート・ポジションはそのまま空けておく。

322.4 スタート順とスタート手順 (Starting Order and Start Procedure)

- 322.4.1 マス・スタートの手順が適応される (CR315.3 を参照)。

322.5 計時及びリザルト (Timing and results)

- 322.5.1 通常は周回遅れのルールは適応される。ICR343.13 条を参照。

322.6 ジュリーと抗議 (Jury and protests)

特定の規定はない。

3 2 3 スキーアスロン (Skiathlon)

323.1 定義 (Definition)

スキーアスロン競技は、マス・スタートによりスタートし、前半はクラシカル・テクニクで走り、スタジアム内に設置されたスキー交換用のピット・ボックス内で必ずスキーを取り換え、引き続き後半はフリー・テクニクで走る形式の複合種目である。

323.2 コース及びスタジアム (Courses and stadium)

323.2.1 推奨基準 (Recommended Norms)

項 目	準備対象のテクニク	
	クラシカル・テクニク	フリー・テクニク
コース		
カテゴリー	C か E	D か E
クラシカル・トラック	4トラック	／
トラック間の距離	最小 1.2m	／
スタート		
設定/準備	矢じり形スタート・グリッド	／
クラシカル・トラック	5 又は 7 の奇数	／
トラックの長さ (スタート・ライン後)	50m から 100m	／

トラック間の距離	最小 1.2m	／
フィニッシュ		
最小幅	／	最小 12m
コリドーの数	／	少なくとも3コリドー(各 3m)
トラック間の距離	／	／
ピット・ボックス(Pit Box)		
推奨サイズ	長さ 2m~25m	幅 12m~15m

323.2.2 ピット・ボックス・エリア (Pit Box area)

323.2.2.1 ピット・ボックス・エリア内は、テクニックの規制はない。

323.2.2.2 ボックスへの入り口側のアクセス・コースは最低 4m 幅、ボックスの出口側のコースは、最低 6m 幅なければならない。

323.2.2.3 フリー・テクニック用の用具は、競技開始前に指定されたボックス内に置かなければならない。他の用具類はボックス内に置くことができない。

323.2.2.4 用具の交換は指定されたボックス内で、誰の援助も受けずに選手自身で行わなければならない。交換した用具は選手が競技を終了するまでボックスにそのまま置かなければならない。

323.2.2.5 競技開始 5 分前には、コーチ及びサービスマンはピット・ボックス・エリアから出て行かなければならない。

323.3 代替選手のエントリー (Entries - Substitution)

323.3.1 代替選手のエントリーは ICR313.4 に従う。

323.3.2 代替選手のスタート位置は、該当するレースのスタート順の決定方法に従い、ジュリーが決める。代替選手のスタート位置は、該当選手 (ポイント・リスト上の) の直前直後の選手と選手の間スタート・ラインからとする。

323.3.3 代替選手は交代する選手のビブを受け取り着用する。

323.3.4 最初の選手のスタート位置は空けておく。

323.4 スタート順とスタート手順 (Starting Order and Start Procedure)
 323.4.1 マス・スタートの手順によりスタートしなければならない (ICR315.3 参照)。

323.5 計時とリザルト (Timing and results)
 323.5.1 通常、周回遅れのルールは適用される。周回遅れの選手への対処法は、ICR343.13 を参照のこと。

323.6 ジュリーと抗議 (Jury and protests)
 特定の規定はない。

3 2 4 パーシュート競技 (Pursuit)

324.1 定義 (Definition)
 パーシュート競技は、前半はクラシカル・テクニク (インターバル・スタート) で、後半はフリー・テクニク (ハンディキャップ・スタート) で実施される複合種目である。後半のレースのスタート時間は前半のレースのリザルトにより決定する。そして、最終リザルト (公式リザルト) は、後半のレースのフィニッシュ順により決まる。

324.2 コース及びスタジアム (Courses and stadium)
 324.2.1 推奨基準 (Recommended Norms)

項目	準備対象のテクニク	
	クラシカル・テクニク	フリー・テクニク
コース		
カテゴリー	B	C
クラシカル・トラック	4トラック	／
トラック間の距離	最小 1.2m	／
スタート		
設定/準備	2~5コリドー	2~5コリドー
クラシカル・トラック	1コリドーに1トラック	1コリドーに1トラック
トラックの長さ (スタート・ライン後)	スタート・ゾーンの終わり まで	10m
トラック間の距離	3m	3m

フィニッシュ		
最小幅	最小 6 m	最小 12m
コリドーの数	少なくとも4トラック	少なくとも4コリドー(各 3m)
トラック間 の距離	1.2m	／

324.3 代替選手のエントリー (Entries – Substitution)

324.3.1 代替選手のエントリーはICR313.4に則り、前半の競技開始前のみ認められる。

324.4 スタート順とスタート手順 (Starting Order and Start Procedure)

324.4.1 ハンディキャップ・スタートの手順を適用する (ICR315.4を参照)。

324.5 計時及びリザルト (Timing and results)

324.5.1 パーシュート競技の最終の所要タイムは、10分の1秒を削除された前半のレースの所要タイムに、10の1秒まで計算された後半のレースのタイムを足して最終タイムとする。最終順位は後半のレースのフィニッシュ順である。

324.5.2 通常、周回遅れのルールは、ICR343.13に当てはまる、周回遅の選手に対して適用する。

324.5.3 ジュリーは悪天候の場合、後半のレースのスタートを延期、或は中止することが出来る。レースを中止する場合は、前半のレースのリザルトがパーシュート競技の最終リザルトとなる。

324.6 ジュリーと抗議 (Jury and protests)

特定なルールはない。

3 2 5 個人スプリント競技 (Individual Sprint Competitions)

325.1 定義 (Definition)

個人スプリント競技は、インターバル・スタートで予選ラウンドを実施する。予選ラウンド後、予選を通過した選手はトーナメント方式の勝ち抜き戦（ヒート戦）により、決勝ラウンド（スプリント・ファイナル）を競う

325.2 コース及びスタジアム (Courses and stadium)

325.2.1 推奨基準 (Recommended Norms)

項目	準備対象のテクニック	
	クラシカル・テクニック	フリー・テクニック
コース		
カテゴリー	C	D
クラシカル・トラック	4トラック	／
トラック間の距離	最小 1.2m	／
スタート		
設定/準備	予選ラウンドの予備コリドー、 6コリドー/ ヒート用ゲート	予選ラウンドの予備コリドー、 6コリドー/ヒート用ゲート
クラシカル・トラック	1コリドーに1トラック	1コリドーに1トラック
トラックの長さ (スタート・ライン後)	スタート・ゾーンの終わり	15m
トラック間の距離	1.8m	最小 1.8m
フィニッシュ		
最小幅	最小 6m	最小 12m
コリドーの数	少なくとも4トラック	少なくとも4コリドー(各 3m)
トラック間距離	1.2m	／

325.2.2 コースは予選と決勝ラウンド（ヒート戦）は同じコースを使用する。

325.2.3 コースの一部には、追い越しが十分可能な直線、十分な幅と長さのある箇所を設定しなければならない。

325.3 代替選手のエントリー（Entries – Substitution）

325.3.1 代替選手のエントリーはICR313.4条に則り、予選ラウンド開始前であれば認められる。

325.3.2 代替選手のスタート順は、 Jury が決める。

325.4 スタート順とスタート手順（Starting Order and Start Procedure）

325.4.1 予選（Qualification）

325.4.1.1 個人スプリント競技のスタートは、インターバル・スタートにより行わなければならない（ICR315.2参照）。

スタート間隔は 10、15、20、或は 30 秒のいずれかである。

- 325.4.1.2 もし、2周するコース計画ならインターバル・ブロック・スタートで行うこともできる。
- 325.4.1.3 予選タイムが同タイムの場合、準々決勝に進出できる選手は、予選のスタート・リスト作成に用いた FIS/SAJ スプリント・ポイントに基づいて決められる。予選で同タイムの選手が複数出ても準々決勝へ進める選手の最大人数は変更できない (30/24/16人)。
- 325.4.2 決勝ラウンド (Final Heats : 準々決勝 Quarterfinals、準決勝 Semi-finals and 決勝 Finals)
- 325.4.2.1 ヒート・スタートは ICR315.5 のとおりに行わなければならない。
- 325.4.2.2 OWG、WSC、及び WC のヒート戦 (決勝ラウンド) は、準々決勝、準決勝と決勝 A からなる。その他の大会では、主催者がヒート戦 (決勝ラウンド) に決勝 B を含めて行うかどうかを決める。
- 325.4.2.3 選手のスタート位置は、次のように選手が選ぶ：
- 準々決勝：予選タイムのよい順に選ぶ
 - 準決勝：準々決勝の順位と予選タイム (タイム計測する場合は準々決勝のタイム) のよい順に選ぶ
 - 決勝：準決勝の順位と予選タイム (タイムを計測する場合は準決勝のタイム) のよい順に選ぶ
- 325.4.2.4 準々決勝の各組への選手の割振りは、予選ラウンドの順位によって決める。準決勝の各組、決勝へも、前のラウンドの順位、又はタイムに基づいて割振られる。次の表は、決勝ラウンドでタイムを取らないときの決勝ラウンドにおける基本的な選手の割振りを示す。
- 325.4.2.5 A 表：準々決勝 1組6人の5組制の場合

A表 準々決勝 1組6人5組制 最大30人					
各組への割振り	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5
1～20位の割振り	1	4	5	2	3
	10	7	6	9	8
	11	14	15	12	13
	20	17	16	19	18
21～25位の割振り	21	24	25	22	23
26～30位の割振り	30	27	26	29	28

準決勝 Semi Finals (12)		決勝 Finals (6+6)	
S1	S2	決勝B	決勝A
Q1 1位	Q4 1位	S1 4位	S1 1位
Q1 2位	Q4 2位	S2 4位	S2 1位
Q2 1位	Q5 1位	S1 5位	S1 2位
Q2 2位	Q5 2位	S2 5位	S2 2位
Q3 2位	Q3 1位	S1 6位	S1 3位
R3-1*	R3-2*	S2 6位	S2 3位

※ 準々決勝でタイムを取らない時の準決勝各組6番目のポジション：

準々決勝各組の3位の中から、予選ラウンドの1番よいタイムの選手を (QR3-1) S1へ、2番目にタイムがよい選手を (QR3-2) S2へ割振る。

325.4.2.6 B表：準々決勝4組制の場合

B表 準々決勝 1組4～6人4組制 最大24人				
各組への割振り	Q1	Q2	Q3	Q4
1～16位の割振り	1	4	2	3
	8	5	7	6
	9	12	10	11
	16	13	15	14
17～24位の割振り	17	20	18	19
	24	21	23	22

続B表			
準決勝 Semi Finals (8)		決勝 Finals (4+4)	
S1	S2	決勝B	決勝A
Q1 1位	Q3 1位	S1 3位	S1 1位
Q1 2位	Q3 2位	S1 4位	S1 2位
Q2 1位	Q4 1位	S2 3位	S2 1位
Q2 2位	Q4 2位	S2 4位	S2 2位

325.4.2.7 OWG、WSC、JWSC、及びWCの決勝ラウンドでは、タイム計測をし以下の基準に従って準決勝、及び決勝Aへ選手を割振らなければならない。

A決勝は以下の原則に従う：

準決勝各組の6番目には、準々決勝各組の3位と4位の選手の中で、1番良いタイムの選手をS1へ、2番目に良いタイムの選手をS2へ割振る。

決勝Aへは準決勝各組1位と2位の選手、準決勝各組の3位と4位の選手の中で1番目と2番目に良いタイムの選手が割振られる。それ以外の選手は決勝Bへ割振られる。

準決勝で同タイムの選手が出た場合、5番目と6番目の（ラッキー・ルーザー）のポジションは当該選手の予選タイムによって決められる。予選のタイムが同じ場合は、最新のFIS/SAJスプリント・ポイントにより決める。それでも決められない場合はドローによって決める。

325.4.2.8 スプリント競技の予選ラウンドにおいて、選手が20人以下の場合、ジュリーはA表の縮小版を適用するか、準決勝、或は決勝Aへ直接選手を割振ることもできる。

325.4.2.9 スターターはフライング（不正スタート）について、競技者のミスによるものか、スタート・ゲートの機械的な不具合によるものなのかを公表しなければならない。ヒート戦において、最初のフライングに続き、同じヒートにおいて2度目にフライングした選手は競技を中止しなければならない。その選手の順位は、決勝、準決勝、準々決勝の最後にランクされる（順位は6、12、30位、又は4、8、16位）。

325.5 計時及びリザルト (Timing and results)

325.5.1 OWG、WSC、JWSC、及びWCでは、スプリント競技の予選ラウンドと決勝ラウンド（ヒート戦）のスタートとフィニッシュ・タイムは、1000分の1秒単位で計測され、最終リザルトへは100分の1秒単位で記載される。他のFISスプリント競技では、100分の1秒の精度しか持たない計時器具を使うのは可能であり、最終リザルトへは100分の1秒単位で記載する。

325.5.2 予選 (Qualification)

325.5.2.1 予選で同タイムの選手が出た場合、準々決勝に進出できる選手は、予選のスタート・リスト作成に用いた FIS/SAJ スプリント・ポイントに従って決められる。予選タイムが同タイムで準々決勝へ進めなかった選手は、同じ順位で予選の最終リザルトに記載される。

325.5.3 決勝（Final Heats）

325.5.3.1 準々決勝又は準決勝（決勝 B を実施しない場合）において、同順位でも敗退した選手は、予選タイムに基づき最終リザルトへ順位付けられる。

325.5.3.2 準々決勝を 30 人の選手で競うスプリント競技では、リザルトは次のように作成される：

- 31 位～最下位、 予選ラウンドの記録によって決める。
- 26 位～30 位、 準々決勝の各組 6 位の選手が該当し、順位は当該選手の予選ラウンドの記録を基に決定する。
- 21 位～25 位、 準々決勝の各組 5 位の選手が該当し、順位は当該選手の予選ラウンドの記録を基に決定する。
- 16/17 位～20 位、 準々決勝、各組 4 位の選手が該当し、順位は当該選手の予選ラウンドの記録を基に決定する（タイム計測をする場合、当該選手の中から準決勝に進む可能性がある）。
- 13 位～15/16 位、 準々決勝各組の 3 位の選手で準決勝に進めなかった場合、順位は選手の予選ラウンドの記録を基に決定する。
- 7 位～12 位、 B 決勝のフィニッシュ順により決める。B 決勝を行わない場合は、準決勝と予選の記録を基に決定する。
- 1 位～6 位、 A 決勝のフィニッシュ順により決める

325.5.3.3 準々決勝を 16 人の選手で競うスプリント競技では、リザルト・リストは次のように作成される：

- 17 位以下、 予選の記録によって決める。
- 13 位から 16 位、 準々決勝各組 4 位の選手が該当し、当該選手の順位は予選ラウンドの記録を基に決定する。
- 9 位から 12 位、 準々決勝各組の 3 位の選手が該当し、当該選手の順位は予選ラウンドの記録を基に決定する。
- 5 位から 8 位、 決勝 B のフィニッシュ順位に基づいて決定する。
- 1 位から 4 位、 決勝 A のフィニッシュ順位に基づいて決定する。

スプリント決勝戦で出場人数が異なる場合でも、同様の規則を適用する。

325.5.3.4 準々決勝又は準決勝で同着の選手が出た場合、予選タイムの良い競技者が上位にランクされる。決勝A及び決勝Bで同着の場合は、当該選手は同順位として公式リザルトに記載される。

325.5.3.5 各ヒートにおいて、選手がスタートしなかったり、或はスキーを履かずに走った場合、その選手は決勝、準決勝、準々決勝のそれぞれの最後にランクされる（順位は6、12、30位又は4、8、16位）。

325.5.3.6 不可抗力のためフィニッシュできなかった選手は、そのヒートの最下位にランクされる。

325.6 ジュリーと抗議 (Jury and Protest)

325.6.1 OWG、WSC、JWSC、及びWCのスプリント競技の決勝ラウンドでは、TDを含む最低3人のジュリー・メンバーの全員が一致して決定した事項が、「ジュリーの決定」とされる。

325.6.2 決勝ラウンドは連続的に競技が進行し時間的制約もあるため、準々決勝、及び準決勝中の抗議は受理しない。抗議は決勝の後のみ受理する。

325.6.3 準々決勝と準決勝中は、ICR224.7条（違反に問われている人物の抗弁の機会）は適用しない

3 2 6 チーム・スプリント競技 (Team Sprint Competitions)

326.1 定義 (Definition)

チーム・スプリントは、2名の選手が交互に各々3～6区間を走る競技である。区間数、及び距離は開催要項で公表されなければならない。

326.2 コースとスタジアム (Courses and stadium)

326.2.1 推奨基準 (Recommended Norms)

項目	準備対象のテクニック	
	クラシカル・テクニック	フリー・テクニック
コース		
カテゴリー	C	D
クラシカル・トラック	4トラック	／
トラック間の距離	最小 1.2m	／
スタート		
設定/準備	矢じり形スタート・グリッド	矢じり形スタート・グリッド
クラシカル・トラック	3か5の奇数	3か5の奇数
トラックの長さ (スタート・ライン後)	スタート・ゾーンの終わり まで	15m
トラック間の距離	1.2m	1.2m
フィニッシュ		
最小幅	6m	12m
コリドーの数	少なくとも4トラック	少なくとも4コリドー(各3m)
トラック間の距離	1.2m	／
中継ゾーン		
長さ	45m	45m
幅	9m	15m

326.2.2 コースの一部には、追い越しが十分可能な直線、十分な幅と長さのある箇所を設定しなければならない。

326.2.3 中継ゾーンの近くに、スキー準備ゾーンを設けなければならない。
 ジュリーは、1チーム当たりのサービスマンの数とワックス・テーブル使用の可否について決める。

326.3 代替選手のエントリー (Entries - Substitution)

326.3.1 チーム・キャプテン・ミーティングの2時間前までに、実際にレースに出場する選手の氏名及び走順をレース・オフィスに提出しなければならない。

326.3.2 代替選手のエントリーはICR313.4に従う。

- 326.3.3 代替選手は、交代した選手と同じスタート順でスタートしなければならない。
チーム内の走順は変更できない。
- 326.3.4 代替選手が他のチームでエントリーしていた場合、このチームの出場は認められない。
- 326.3.5 選手の交代があった場合、そのチームの最初のスタート位置は無効となり、最後列からスタートしなければならない。チーム内の走順の変更は認められない。
当初スタートするはずであったスタート位置はそのまま空けておく。
- 326.4 スタート順とスタート手順 (Starting Order and Start Procedure)**
- 326.4.1 マス・スタートの手順が適用される (ICR315.3 参照)。
- 326.4.2 チーム・スプリントの準決勝は、決勝戦へ進むチームを選ぶため、通常は準決勝 A 組、準決勝 B 組の 2 組に分かれて実施される。各チームは次の原則により各組へ均等に割振られる：
- FIS/SAJ ポイントの合計点が最良のチームは、準決勝 A 組へ割振られる
 - 残りのチームは、FIS/SAJ ポイントの合計点を基にしたランキング順に、2 と 3 番目のチームは B へ、4 と 5 番目のチームは A に、以後同様に交互に割り振られる。
- 326.4.2.1 登録した選手が FIS/SAJ ポイントを保有していない場合、或は 160 ポイントを上回っている場合、160 ポイントを使い計算される。
- 326.4.3 準決勝において 1 組のチーム数は、15 チームを超えてはならない。
決勝戦では 10 チームを超えてはならない。
- 326.4.4 準決勝 A 組、B 組のどちらを先に実施するかはドローにより決定する。
- 326.4.5 準決勝のスタート位置：チーム・メンバー 2 人の FIS スプリント・ポイント、或はディスタンス・ポイントの合計点が一番良いチームが 1 番目のコリドーに、二番目に良いチームは第 2 コリドーに位置する。以下同様に続く。
複数のチームが合計で同点になった場合、その中で一番良いポイントを所有している選手のいるチームが優先される。それでもスタート位置が決まらない場合はドローで決める。

- 326.4.6 準決勝から決勝へ進むチームの選定は以下の原則に従う：
- 準決勝でタイム計測をしない場合は、準決勝各組の上位5チームが決勝へ進む。
 - タイム計測を行う場合は、準決勝各組の上位2チームと各組の3位から8位の内から、タイムの良い6チームが決勝戦へ進む。

326.4.7 決勝戦のスタート位置は、準決勝の結果に基づいて決められる（タイム順）。

326.5 計時及びリザルト (Timing and results)

326.5.1 OWG、WSC、JWSC、及びWCではチーム・スプリント競技の準決勝と決勝のスタートとフィニッシュ・タイムは、1000分の1秒単位で計測され、最終リザルトへは100分の1秒単位で記載される。他のFISスプリント競技は、100分の1秒の精度しか持たない計測器具を使うことも可能であるが、最終リザルトへは100分の1秒単位で記載される。

326.5.2 通常、周回遅れのルールは、ICR343.13に従い適用される。

326.5.3 最終リザルトは、次のように公表される：
決勝に出場した全チームは決勝の順位に従ってリザルトに記載される。準決勝から決勝に進めなかったチームは、決勝戦に進んだチームの次の順位からそれぞれの順位が与えられる。
例えば、準決勝各組の上位5チームが決勝に進出した場合、各組で6位のチームは、準決勝のタイムの良い順に、最終リザルトでは11位、12位となり、各組7位のチームが準決勝のタイム順に13位、14位となる。

326.6 ジュリーと抗議 (Jury and Protest)

326.6.1 OWG、WSC、及びWCのチーム・スプリント競技では、TDを含む最低3人のジュリー・メンバーの全員が一致して決定した事項が、「ジュリーの決定」とされる。

326.6.2 準決勝は連続的に競技が進行し時間的制約もあるため、準決勝の競技中の抗議は受理しない。抗議は決勝の後のみ受理する。

326.6.3 準決勝の競技中は、ICR224.7は適用しない

3 2 7 リレー競技 (Relay Competitions)

327.1 定義 (Definition)

327.1.1 リレー・チームは開催要項に従い3人、或は4人の選手で構成され、各選手は、各々1区間ずつ走る。OWG、WSC、JWSC、及びWC大会では、男女とも4名の選手でチームを構成する。

全日本選手権では男子4名、女子は3名で構成する。

327.1.2 OWG、WSC、WC、及びJWSCでは、最初の2区間はクラシカル用コースをクラシカル・テクニクで走り、次の2区間はフリー用コースをフリー・テクニクで走る。

327.2 コースとスタジアムの準備 (Courses and stadium preparation)

327.2.1 推奨基準 (Recommended Norms)

項 目	準備対象のテクニク	
	クラシカル・テクニク	フリー・テクニク
コース		
カテゴリー	B	C
クラシカル・トラック	2トラック	／
トラック間の距離	最小1.2m	／
スタート		
設定/準備	矢じり形スタート・グリッド	矢じり形スタート・グリッド
クラシカル・トラック	5か7の奇数	5か7の奇数
トラックの長さ (スタート・ライン後)	スタート・ゾーンの端	15m
トラック間距離	1.2m	1.2m
フィニッシュ		
最小幅	6m	12m
コリドーの数	少なくとも4トラック	4コリドー(各3m)
トラック間距離	1.2m	／
中継ゾーン		
長さ	30m	30m
幅	9m	9m

327.2.2 第1区間の距離は競技会場の設営状況により、他の区間の距離の±5%以内の差異なら許容範囲である。

327.3 代替選手のエントリー (Entries-Substitution)

327.3.1 実際に出場する選手の氏名、及び走順をチーム・キャプテン・ミーティングの少なくとも2時間前までに、レース・オフィスに提出しなければならない。

327.3.2 代替選手のエントリーはICR313.4に従う。

327.3.3 選手交代による走順の変更はできない。

327.3.4 代替選手が他のチームで申し込んでいた場合、このチームは出場できない。

327.3.5 選手交代があった場合でも、チームのスタート位置は同じである。

327.4 スタート順とスタート手順 (Starting Order and Start Procedure)

327.4.1 マス・スタートの手順によりスタートしなければならない (ICR315.3 参照)。

327.4.2 スタート位置は通常ドローにより決める。OWG、WSC、及びJWSCでは、前回大会の順位で決める。WCでは、最新のネーション・カップ・ランキングにより決定される。前回大会の成績のないチームのスタート位置は、ドローで決定される。

SAJ公認大会はこれに準じて実施する。

327.4.3 各国で複数のチームが公式にエントリーで可能な場合、第1チームが第2チームより前に、同様に第2チームが第3チームより前のスタート位置に並ぶように配置される。非公式チームは最も不利なスタート位置とする。

全日本選手権においても同様である。

327.4.4 区間毎に違う色のビブ・ナンバーを使わなければならない。

OWG、WSC、WC大会/全日本選手権では次の通りである：

第1走者：赤、第2走者：緑、第3走者：黄、第4走者：青

327.5 計時とリザルト (Timing and results)

327.5.1 コースの各区間のタイムは、選手が中間計時ラインを横切った瞬間に計時される。

これは同時に、次の走者のスタート時間となる。

327.5.2 リレー・チームの総合タイムは、第1走者がスタートして、最終走者がフィニッシュ・ラインを越えるまでの経過時間である。最終区間の走者がフィニッシュした順が公式リザルトの順位である。

327.5.3 通常、周回遅れのルールは、ICR343.13 に従い適用される。

327.6 ジュリーと抗議 (Jury and protests)
特別なルールはない。

D. 競技と競技者 (The Competition and the Competitors)

341 競技者資格 (Requirements of the Competitors)

341.1 年齢による分類 (Age Categories)

341.1.1 FISの競技年は7月1日から翌年の6月30日まで、である。

341.1.2 シニアは、男女とも暦年中(1月1日~12月31日)に21歳以上でなければならない。参加資格は、競技シーズン開始と同時に与えられる(例えば、競技年が2013年の場合は、前年の2012年7月1日から)。

全日本選手権大会では、年齢による組分けは行わず、選手権競技のみであり、出場できる年齢は男女とも当該競技年1月1日現在15歳以上である。

341.1.3 ジュニアは、男女とも暦年中(1月1日~12月31日)に20歳以下でなければならない。2013年以降のジュニア競技者の誕生年は次の通り：

- 2013年シーズン：1993年以降に生まれた者
- 2014年シーズン：1994年以降に生まれた者
- 2015年シーズン：1995年以降に生まれた者
- 2016年シーズン：1996年以降に生まれた者
- 2017年シーズン：1997年以降に生まれた者

U23は、男女とも暦年中(1月1日~12月31日)、23歳以下でなければならない。2013年以降のU23競技者の誕生年は次の通り：

- 2013年シーズン：1990年以降に生まれた者
- 2014年シーズン：1991年以降に生まれた者

- 2015年シーズン：1992年以降に生まれた者
- 2016年シーズン：1993年以降に生まれた者
- 2017年シーズン：1994年以降に生まれた者

341.1.4 通常、ジュニア選手は男女とも自分の年齢カテゴリーの競技に出場するものとするが、男子、女子各々の年齢区分のない競技に出場することもできる。

341.1.5 WSC大会では年齢制限はないが、JWSCとU23WSCではICR341.1.3を適用する。

341.2 FIS/SAJ ポイント・システム (FIS /SAJ Points System)

341.2.1 FISポイントは特に、OWG、WSC、及びWCへの参加資格基準、並びにグループ分けやスタート・リスト作成のために用いられる (FIS ウェブ・サイト：「WCルール」・「FISポイント・ルールとガイドライン」参照)。

SAJポイントもSAJ公認大会に対して、上記と同様に用いる。

342 健康診断 (Medical Examinations)

342.1 健康状態 (State of Health)

342.1.1 各国スキー連盟/参加チームは、参加する所属選手の健康状態に責任を負う。医事・救護係長は、選手の所属するチーム・キャプテン、選手本人、或はFIS医事委員会代表者の要請があった場合のみ健康診断を行う (ICR221参照)。

343 選手の責任 (Responsibilities of Competitors)

343.1 選手は、トレーニング中や競技中はいかなる時でも、見通し、混雑状況など、コース・コンディションに注意を払い、行動しなければならない。

343.2 トレーニング中や競技中、選手は常に競技コースの順路に沿って、スキーで滑走しなければならない (逆走は厳禁)。

343.3 選手は、ジュリー、又は大会組織委員会から、競技前・競技中・競技後に、コース上、スタジアム内、及びチーム準備エリアの秩序を維持するための特別な指示 (規制) に従わなければならない (コース・オープン時間、特別なビブの着用、トレーニング、スキー・テストなど)。

343.4 選手は、スタート時間までにスタート地点へ移動し、正しい時間にスタートする責任がある。

- 343.5** トランスポンダーやGPSが使用される場合、選手はそれらを装着する義務がある。
- 343.6** 選手はスタートからフィニッシュまで、コース上の標識に従いを正しい順路で走り、全てのコントロール・ポイント（関門）を通過しなければならない。
- 343.6.1** 選手が順路を誤って滑走した場合やマークされたコースから離れた場合は、間違いを起こした地点まで戻らなければならない。戻るために逆走する場合、他の選手への妨害や他の選手を危険に晒すことがないようにしなければならない。この責任は、全てコース間違いを犯した選手にある。当該選手がタイムや順位面で有利になったり、他の選手への不法妨害がない限り、間違いを犯したことに対する罰則はない。
- 343.7** 選手は、全コースを自分の力で走らなければならない。ペース・メーカーの助けや背中を押してもらうなど、他人から補助を受けてはならない。
- 343.8** クラシカル・テクニックの競技では、選手はクラシカル・テクニックのみを用いて滑らなければならない。
- 343.9** 全ての競技において妨害行為は許されない。この行為は故意に妨害すること、ベスト・ラインを滑らず進行を妨げること（ブロッキング）、体の一部、或はスキー用具を使い選手へチャージすること、押すこと、と定義する。
- 343.10 追い越し (Overtaking)**
- 343.10.1** インターバル・スタート競技では、他の選手に追い越される場合、最初の要求があった時点でコースを譲らなければならない。
このルールは、トラックが2セットあるクラシカル用トラックでも、追い越される際にスケーティング動作を制限しなければならないようなフリー用のコースでも適用される。
- 343.10.2** 他の全ての競技において、追い越しを行う際、選手は如何なる妨害も行っていない。
追い越す際、支障なく正しく通過する責任は、追い越す選手にある。追い越しを行う選手は、ベストラインを滑る前に、追い越される選手のスキーと接触しないくらい前まで進まなければならない。

343.11 用具交換 (Equipment exchange)

- 343.11.1 全ての競技において、ポールの交換は許される。
- 343.11.2 スキーは以下に該当した場合、交換できる：
- スキーやビンディングが破損した場合。試合終了後、これらの用具が破損したことを Jury に証明しなければならない (検認を受ける)。
 - ピット・ボックス (スキー交換ボックス) が設置されている競技。
- 343.11.3 スキー交換をする際、選手はどんな場合においてもトラックの外において、誰からも補助を受けないでスキー交換をしなければならない。
- 343.11.4 ディスタンスやスキーアスロン競技において、ピット・ボックス (スキー交換ボックス) が設置されている場合、選手はピット・ボックス内で1回、又はそれ以上、スキー交換が認められる。通常、交換回数の上限はチーム・キャプテン・ミーティングの前に決められる。交換最高回数はコースやラップの長さに基づくが、次の回数に制限される：
- 30Km までの競技では最高3回。
 - 30Km より長い競技では最高5回。
 - スキーアスロン競技は最高1回
- 343.11.5 ピット・ボックス (スキー交換ボックス) が設置されているレースで、ピット・ボックス・エリアの入り口からボックスに沿って追い越す場合は、ボックスから遠い外側からの追い越し、のみが認められる。
- 343.11.6 競技中、スキー板にワックスを塗ったり削り落としたり、クリーニングを行うことは禁止されている。例外として、クラシカル・テクニク競技では、スキー板についた雪や氷を削り落としたり、必要ならワックスを塗ってもよい。この場合、選手は用具や用品を使い、選手自身の手で他人からの補助を受けずにトラックの外で行わなければならない。整備されたコース上やその近くに用具や用品を置くことは許可されない。
- ### **343.12** リレーの中継 (Relay exchange)
- 343.12.1 チーム競技の選手間の中継は中継ゾーン内において、前の走者の手で次の走者の体の一部に触れることにより成立する。次の走者は召集された時点で中継ゾーンに入ることが出来る。どんな方法であれ、次の走者を押す行為は、禁止である。

343.13 オーバーラップ (Overlapping)

343.13.1 パーシュート、スキージアスロン、マス・スタート、チーム・スプリント、及びリレー競技では、選手又はチームが1周遅れになった場合や競技役員から競技中止の指示を受けた選手やチームは、競技を中止しなければならない。
競技を中止する選手やチームは、最後に通過した中間計時計測地点の順位を、タイム表記なしで最終リザルトに記載される。

343.13.2 OWG、WSC、及びWC では、ICR343.13.1 を適用しなければならない。

343.13.3 他の全ての FIS/SAJ 競技会に於いては、ICR343.13.1 を適用するか否かはジュリーが決める。

343.14 競技中はコーチと選手間、又は選手同士で無線通信機器を使って連絡を取ること
は認められない。

343.15 選手は、競技役員の指示に従わなければならない。

343.16 競技者は、全ての医事規則を遵守しなければならない (ICR221 を参照)。

3 4 4 役員及び他の関係者の責任 (Responsibilities of Officials and Others)

344.1 ジュリーは必要に応じて、競技前、競技中、及び競技終了後に、競技コースやスタジアム、チーム準備エリアの秩序を維持するため、役員、報道関係者、サービス・スタッフやその他非競技者に対し特別規則を設ける。

344.2 競技コースの秩序の維持と管理のために、次の原則が適用される：

- スタート5分前から後走者が通過するまで、全ての競技役員、コーチ、非競技者、その他許可を受けた者の、コース内でのスキー走行は認められない。競技中はコース・サイドの決められた場所にスキーを外し立っていないなければならない。
- 中間計時タイムや情報を選手に知らせる場合、役員、コーチ、その他のスタッフは、選手の横を、30mを超えて走ってはならない。
- 上記の行為を行う場合、役員その他の者は選手を妨害しないよう注意を払わなければならない。
- コーチが選手に飲食物を渡す場合、選手を妨害しないよう注意を払い、決められた場所に止まっていなければならない。

344.3 良質なTV放映を提供するためや安全のために、競技用コースの一部を閉鎖し、選手以外の立ち入りを禁止する場合がある。ジュリーは競技前と競技中に、競技用コース内の決められた一部の場所で、スキー・テストやウォーム・アップを行うことを許可しても良い。この、「立入り許可エリア」へは、特別な専用ビブを着用した選手やサービス・スタッフは、スキーを履いて立ち入ることができる。

344.4 競技用コース内でのワックス・テスト、及びウォーム・アップは、本番の競技と同じ方向に向かって行わなければならない。競技コース内でスキー・テストを行う際は、コース内にいる全ての人々の安全とコース準備の邪魔にならないように注意して行わなければならない。競技中、或はオフィシャル・トレーニング中、スキー・テスト用の電子計測器を使つてのテストは認められない。

E. スタート不許可、制裁 (Not Permitted to Start, Sanctions)

3 5 1 スタート不許可 (Not Permitted to Start)

次に該当する選手は、FIS 国際スキー競技大会への出場は認められない。

351.1 公序良俗に反する名称やシンボルの付いた衣類、及び用具を身につけた選手 (ICR206.7)、スタート・エリアにおいて、スポーツマンらしくからぬ振る舞いをした選手 (ICR205.5)。

351.2 用具 (ICR222)、及びコマシャル・マーキング (ICR207) に関する FIS ルールに違反した選手。

351.3 FIS が要求する医学検査を受けることを拒否した選手 (ICR221.2)。

351.4 選手がスタートした後に、上記規則に違反しているとジュリーが判断した場合、ジュリーは選手に対し制裁を下さなければならない。

3 5 2 制裁 (Sanctions)

352.1 手順 (Procedure)

ルール違反が生じた場合、ジュリーは協議して、次のことを考慮し適切な制裁を決定しなければならない。

- 特殊な状況下であったか。
- 違反者の利益や有利になつたりしないか (ICR223.3 参照)。
- 他の選手へ不利な影響はないか。

- 最終リザルトや中間リザルトへ影響はないか（スプリントのヒート戦やボーナス・スプリント）。
- 違反選手の抗弁の機会を設けたか（ICR224.7 参照）。
- 競技会のレベルはどのくらいか。
- 選手の年齢や経験について。
- FIS ウェブ・サイトで公開されている「ジュリーの業務についてのガイドライン」との適合性はあるか。

352.2 失格（Disqualification）

352.2.1 失格は重大な違反と、最終リザルトへ明らかに影響がある違反に対してのみ行使される。

352.2.2 次に該当する選手は自動的に失格となる：

- 偽って競技会に参加した場合。
- 人や物の安全を脅かしたり、実際に傷害又は損害を与えた場合。
- リレー競技において、1人で一区間以上走った場合（ICR327.1.1 参照）。

352.2.3 同一シーズン中に書面戒告を2度受けた選手は、自動的に失格となる。シーズン中に受けた書面戒告は、WSC と OWG の開催期間中は有効とならない。WSC と OWG 大会中に受けた書面戒告はそのシーズン終了まで有効である。

352.2.4 ステージ・イベントの開催期間中、通常なら失格を科されるような違反の代わりにタイム・ペナルティーを科することができる（ICR353.4 参照）。失格にするかタイム・ペナルティーを科すかは、ジュリーが決める。

352.2.5 失格が確定した場合、訂正されたリザルトには、失格（DSQ）と記された該当選手の氏名がタイムなしで記載される。

352.2.6 個人スプリントとチーム・スプリントの競技中に、失格と判断された違反行為により次のラウンドへ進めなくなった場合、ジュリーは妨害された選手やチームが次のラウンドへ進出することを認めることができる。この場合当該選手やチームは最も不利な位置からスタートする。

352.3 競技停止（Competition suspension）

- 352.3.1 競技停止処分は、スプリントのヒート戦（決勝ラウンド）とボーナス・スプリント中（中間地点とフィニッシュ地点の両方）に起きた ICR 違反行為に対してのみ行使することができる。
- 352.3.2 競技停止処分は、必ず書面をもって行わなければならない。
- 352.3.3 スプリント競技において、競技停止処分を受けた選手は各ヒート戦の最後にランクされる。決勝なら 6 位、準決勝なら 12 位、準々決勝なら 30 位となる。
- 352.3.4 ステージ・イベントのマス・スタート及びスキーマスロンの競技中に、競技停止処分を受けた選手は、ボーナス・ポイントの取得は認められない。
- 352.4 タイム・ペナルティー (Time Penalty)**
- 352.4.1 フライング（不正スタート）の制裁は、タイム・ペナルティーである。
- 352.4.1.1 インターバル・スタート競技やスプリントの予選ラウンドでは、フライングをした選手には、最小 15 秒のタイム・ペナルティーが科せられる（所要タイム+15 秒のタイム・ペナルティー）。
- 352.4.1.2 ハンディキャップ・スタート競技でフライングを犯した選手には、実際にスタートした時間と定時スタート時間との時間差（掲示された定時スタート時間－実際にスタートした時間）+30 秒が最小のタイム・ペナルティーとして科せられる。
- 352.4.2 ステージ・イベントにおいて、ジュリーは失格（DSQ）の代わりに 3 分のタイム・ペナルティーを科すことができる（ICR352.2.4 参照）。
- 352.5 書面懲戒 (Written Reprimand)**
- 352.5.1 違反者が有利にならないようなルール違反に対しては、書面懲戒処分を行う。
- 352.6 口頭懲戒 (Verbal Reprimand)**
- 走法や行為がルール違反に近い選手に対しては、口頭懲戒として懲戒内容を伝え注意する。
- 352.7 罰金 (Monetary Fine)**
- 352.7.1 大会の認定登録を受けた者へ罰金を科すことができる。

- 352.7.2 広告やコマーシャル・マーキング・ルール違反、軽微なコース内のルール違反、スキー・テストやウォーム・アップ時の制約違反に対して罰金が科せられる。
- 352.7.3 選手に対しては、書面懲戒と同時に罰金が科せられる場合がある。

F. 抗議と上訴 (Protests and Appeals)

361 抗議 (Protests)

361.1 抗議の種類 (Types of Protests)

- 361.1.1 選手の出場資格及び競技用具についての抗議。
- 361.1.2 コース、或はコース整備状態についての抗議。
- 361.1.3 競技中の他の選手や役員に対する抗議。
- 361.1.4 計時やリザルトに対する抗議。
- 361.1.5 失格を除いた、ジュリーの決定に対する抗議。ICR325.6.2 及び 326.6.2 も参照。
- 361.1.6 競技大会後に判明した記載上の間違い、或は FIS ルール違反に対する抗議。

361.2 提出場所 (Place of Submission)

抗議は次のように提出する：

- 361.2.1 ICR310～344.4 に関わる抗議は大会公式掲示板に掲載されている提出先へ、又はチーム・キャプテン・ミーティングで公表された場所へ提出する。
- 361.2.2 競技終了後に判明した記載上の間違いや FIS ルール違反に関する抗議は、選手の所属する自国スキー連盟を通して、1ヶ月以内に FIS 事務局へ書留郵便にて送付しなければならない。

361.3 提出期限 (Deadlines for Submission)

- 361.3.1 選手の出場資格に対する抗議、
— ドローの前
- 361.3.2 コース、又はコース整備状態に対する抗議、
— 公式トレーニング終了後 15 分以内

- 361.3.3 他の選手、選手の用品に対する抗議、或は役員競技中における不法な行為に対する抗議
- 非公式リザルトを掲示してから 15 分以内
- 361.3.4 計時計算に対する抗議、
- 非公式リザルトを掲示してから 15 分以内
- 361.3.5 ジュリーの制裁以外の決定事項に対する抗議、
- 非公式リザルト掲示後 15 分以内
- 361.3.6 競技終了後に判明した記載上の間違い、又は FIS ルール違反に関する抗議、
- 大会終了から 1 ヶ月以内
- 361.4 抗議の書面 (Form of Protests)**
- 361.4.1 抗議は書面にて提出しなければならない。
- 361.4.2 抗議には詳細な裏付けが必要である。証拠となるものは一緒に提出しなければならない。
- 361.4.3 抗議の際は 100 スイスフラン、又は、他の有効な通貨で相当額を供託金として抗議書に添えて預けなければならない。抗議が認められた場合は、供託金は返還されるが、認められなかった場合は、FIS 口座に入金される。
SAJ 公認大会では供託金は 5,000 円とする。
- 361.4.4 抗議する者は、ジュリーの決定が公表される前なら抗議を取下げることが出来る。この場合、供託金は返還される。
- 362.4.5 期限内に提出されない抗議、又は供託金を添えてない抗議は受理されない。
- 361.5 認可 (Authorisation)**
- 次の者による抗議書の提出は認められる：
- 各国スキー連盟
 - チーム・キャプテン
- 361.6 ジュリー決裁 (Settlement of Protests by the Jury)**
- 361.6.1 ジュリーは、事前に知らせてある場所と時間に集合し、抗議について協議する。

361.6.2 抗議についての投票には、ジュリー・メンバーのみが参加する。TD が議事進行を司る。投票したジュリー全員が署名した議事録を作成し保管される。抗議に対する決定は、投票権を持つジュリー 全員による多数決である。同票の場合は、TD の票が決定権を持つ。

証拠を公平に評価するという原則は守らなければならない。決定の根拠となる規則が適用され、公正な手続きがなされると言う解釈のもとに、規律の維持が保障される。

361.6.3 決定事項は、議事終了後直ちに公表時間を記して、公式掲示板に発表されなければならない。

3 6 2 上訴権 (Right of Appeal)

362.1 上訴 (The Appeal)

362.1.1 以下に対して上訴できる。

- ジュリーが下した全ての決定事項に対して上訴できる (ICR224.11 も参照)。
- 公式リザルトの明白な計算違いが判明した場合は、直ちに上訴できる。

362.1.2 上訴書は、各国スキー連盟から FIS 宛に提出しなければならない。

362.1.3 提出期限 (Deadlines)

362.1.3.1 ジュリーが下した決定事項に対する上訴は、公式リザルト公表後 7 2 時間以内に提出しなければならない。

362.1.3.2 公式リザルトに対する上訴は、競技日を含み 3 0 日以内に提出しなければならない。

362.1.4 次の機関が、上訴に対し決定を下す。

- 上訴委員会
- FIS 裁判所

362.2 延期の効力 (Postponing Effect)

抗議、上訴で提出された証拠は上訴延期の原因にならない。

362.3 提出 (Submission)

実証する為の全ての証拠は書面で提出しなければならない。物的証拠品や状況証拠も一緒に提出する。証拠の提出があまりにも遅くなった場合は、FIS は上訴を却下する (ICR225.3 参照)。

上訴の申し立ては、500 スイスフランの供託金を添えて行わなければならない。供託金は上訴が認められれば返金される。

G. ポピュラー・クロスカントリー競技大会のガイドライン

(Guidelines for Popular Cross-Country Competitions)

380 ポピュラー・クロスカントリー競技大会 (PCCC) の定義

(Definition of Popular Cross-Country Competitions)

380.1 競技大会 (Competitions)

380.1.1 PCCCはライセンスの有無にかかわらず、あらゆるクロスカントリースキー選手が参加できる、距離や形式に制限のない競技大会のことである。

380.1.2 “PCCC” の標準的な距離は少なくとも女子は 30Km、男子 50Kmでマス・スタートとし、競技コースは自然な地形を利用し自然な景色を背景にPCCCのフォーマットに当てはまるものとする。

381 エントリー及び選手 (Entries and Competition)

381.1 エントリー (Entries)

381.1.1 大会開催の規則に従い、郵便、電子メール、又はファックスにて、迅速にエントリーを行わなければならない。早い時期のエントリーに対しては、エントリー料を下げる場合もある。反対に、遅いエントリーに対しては追加料を取る場合もある。

381.2 ライセンス (Licenses)

381.2.1 ライセンスを受けている選手は、所属国スキー連盟のライセンス必要条件に従う義務がある。

381.3 シード (Seeding)

381.3.1 各選手の競技能力に応じてスタート位置が決められる。このシード分けは、エリート・スタート・グループを含む。エリート・スタート・グループのシードは FIS/SAJ ポイントに基づいて行われ、FIS/SAJ ポイントを持たない選手のシードは前回の成績、又は選手の所属国スキー連盟の指名に基づいて行われる。

381.4 グループ分け (Grouping)

381.4.1 選手は前年の競技大会、又は他の競技大会の成績に従い、グループに分けられる。又、グループ分けは、性別や年齢、若しくはエントリー送付日によっても行われる。

381.5 リザルト (Results)

381.5.1 リザルト・リストは、男女別に作成されなければならない。

381.6 選手 (Competitors)

381.6.1 PCCCは、選手の経験および能力が広い範囲にわたる。出場者全員が楽しんで競技できるように行われるべきである。そのため、特にスポーツマン精神と他の選手に対する礼儀が重視される。スポーツマンとして不相応な態度を取った選手は、 Juryによって失格と見なされる。

競技中、選手は次の条件に従わなければならない：

- スタートからフィニッシュまでの間、標識で示されたコースを走り、すべてのコントロール・ポイントを通過する。
- スキーを付け、自力でコースを完走する。他からの援助は認められない。
- 他の選手を妨害したり、干渉してはならない。
- 速い競技者が追い抜きやすいように、常識的な対応をする。その際、通常遅い選手はコースの右側を、速い競技者は左側に寄る。

381.7 PCCレースは、FISのWC及びマラソンカップ・カレンダーにも含まれていて、エリート・グループの選手は、ICR207「広告および商業マーケティング」とICR222「競技用具」に従わなければならない。

382 情報 (Information)

382.1 告示 (Announcement)

382.1.1 告示には、次の情報を含むこと：

- 大会名
- 大会開催地、又は代替地
- コースの距離及びテクニック
- 競技日及びスタート時間
- シード手順
- エントリーの締め切り
- 登録料
- 宿泊及び移動の手段
- 表彰及び賞品
- 競技が中止となった場合の返済方法
- 保険規則
- その他の有効、又は必要情報

382.2 選手への情報 (Information for Competitors)

382.2.1 競技のスタート前に選手に、次の情報を与える：

- スタート時間
- コースの説明及びプロフィール
- テクニック
- 移動のための情報
- 確認票、又はコントロール・カード
- スキー・マーキング
- スタート方法
- ウォーム・アップ・エリア、及びその方法
- 給食所の位置と給食内容
- 競技者のコース未完走時の処置
- フィニッシュ・ラインでの手順
- 応急治療所に関する情報
- 競技打ち切り時間
- 脱衣と回収場所
- 更衣場所、シャワー所、その他の給食場所
- グループ分けや通達事項を含むリザルト発表
- 抗議手順
- 表彰と賞品
- 競技中止など、短い告示の手順
- チーム・キャプテン・ミーティング、ジュリー・ミーティング、報道者会見、その他のミーティング時間と場所
- 通信サービス
- その他の必要情報

383 ジュリー (Jury)

383.1 ジュリー (The Jury)

383.1.1 ジュリーは、競技の様々な面における処理を行い、大会組織者に対しアドバイスする。PCCCでは選手の安全が優先されなければならない。

ジュリーは次のように構成される：

- ジュリーの長であるTD
- 国内ATD (開催国スキー連盟が任命)
- 競技委員長

TDは、必要に応じてジュリー・ミーティングに、ジュリー・メンバー以外の者を出席させる。その出席者から、助言は受けるが投票する資格はない。

384 コース (The Course)

384.1 コース幅 (Width)

384.1.1 コースからは全ての障害物を除去し、コース全体を通じて最低2セットのトラックをセットする。フリー・テクニクの場合は、支障なく追い抜きができる幅を整備しなければならない。

384.2 スタート・エリア (Start Area)

384.2.1 スタート・エリアは平坦、又はほぼ平坦地でなければならない。スタート・エリアからコースに直接つなげ、著しい混雑が避けられるように十分な広さに設定する。選手がスタートしてからトラックに入るまでの区間では、十分に広がることのできる長さや幅を確保し、そこから徐々にコース幅を狭めていく。更に、スタート・エリアは、次の作業を可能にするものでなければならない：

- スキー・マーキング
- 選手資格のコントロール
- 商業マーキングのコントロール
- 競技者のシード
- 観客整理

384.3 フィニッシュ・エリア (Finish Area)

384.3.1 フィニッシュまでの区間は直線で平坦なコースとする。フィニッシュ・エリアは、複数の選手が互いに邪魔することなくフィニッシュできるだけの十分な幅があり、平坦でなければならない。

最後の200m区間の幅は最低10mとし、少なくとも適切なマーキングにより3レーンに分離しなければならない。

同じコースを用いて同時に競技を複数(異なる距離で2試合)行う場合は、長距離競技の速い走者が短距離競技の遅い走者によって邪魔されないよう、フィニッシュ・レーンを十分に分離しなければならない。

フィニッシュ・エリアは、必要な各コントロール作業のための設備と混雑防止を考慮して設計されなければならない。また、フィニッシュ・エリア付近には、給食、更衣、シャワー、輸送、施設等には、各国語で明確な標識を付け利用できるようにしなければならない。

384.4 コース準備 (Course Preparation)

384.4.1 シーズン前 (Pre-season)

コースは少ない積雪でも、競技が安全に行われるように整備しておかなければならない。

384.4.2 冬期間 (Winter preparation)

コースの最終準備に備えて、硬い基盤を確保するために冬の間ずっと、パッキングとグルーミングを行わなければならない。

384.4.3 フリー・テクニク (Free Technique)

コースを念入りに固め、2人の選手が並んで走れるほどの幅を確保する。適当と判断された場所では、コース・サイドに沿ってトラックを1本設けても良い。最後の200m区間の幅は最低10mとし、適切なマーキングにより最低3レーンに分離されなければならない。

384.4.4 クラシカル・テクニク (Classical Technique)

通常、コースはダブル・トラックにする。幅が十分ある場合には、2本以上トラックを設ける。選手がスムーズに滑れるカーブにはトラックをセットする。急なカーブ、又は速いスピードが出る場所は、トラックを設けない。

TDと競技長に指示されれば、急な下りやその他の箇所にトラックを設けてなくても良い。フィニッシュ・エリアでは、最後の200m区間に可能な限り多くのトラックを設ける。適切な状況の下、TDと競技委員長の承認があれば競技中もコース整備を行うことが認められる。

384.4.5 両方のテクニク (Both Techniques)

競技は同じコースで同時に両方のテクニクで行っても良い。その場合、フリー走者とクラシカル走者がコースを混同しないよう、適当な囲い、又はマーキングを用いてフリー用コースをクラシカル用から分離すること。フリー、クラシカル用いずれのコースもICR384.4.3、及び384.4.4に従って整備・準備されなければならない。

384.5 測定及びマーキング (Measuring and Marking)

384.5.1 競技用コースは、スタートからフィニッシュまでの長さを、鎖、テープ、測定用ホイールを用いて測定する。キロ表示は1km毎に設置する。最終500mと200m地点もマークしなければならない。急な下り、カーブ、交差などの区域にも特別なマーキングをしなければならない。

384.6 給食 (Feeding)

384.6.1 給食所は、ほぼ 10km 毎に設けなければならない。ハードなコースの場合、給食所間の距離を短縮する。反対に容易な内容の場合は延長しても良い。50km 以上の長距離競技の場合、色々な種類の飲食料を提供しなければならない。

384.7 コース・レイアウト (Course Layout)

384.7.1 PCCC は、一般参加者からトップ選手まで、あらゆるレベルの選手に適応できるよう運営されなければならない。コース・レイアウトもまた、参加者の能力、レベルに合ったものでなければならない。

384.8 ボーナス・スプリント (Bonus sprints)

384.8.1 コースに沿ってスプリントを行う時、スプリントへの最終アプローチは 75m 以上のストレートであり、2名以上の競技者が横に並んで滑れるほどの十分な幅があるべきである。ボーナス・スプリントのフィニッシュ・ラインは明確にマーキングされなければならない。スプリント・コントロール係は、各ボーナス・スプリントに割り振られなければならない。

385 コントロール (Control)

385.1 コントロール方法 (Control Procedure)

385.1.1 選手に対し、安全でフェアな大会運営ができるよう、競技のあらゆる面においてコントロールを行う。競技委員長は TD と相談して、コントロール・ポイントの設置およびコントロール係らの任務を決定する。

特に次の項目に注意すること：

- 必要な場合、テクニック面でのコントロール
- 近道行為のない全コース完走
- 組織者が必要条件として定めているマーキングしたスキーでのコース完走 (シード選手は ICR340.1.1 に従う。その他の選手は競技中スキーの片側を 1 回に限り取り替えても良い)
- 規則に則ったあらゆるサポートおよび援助
- 商業マーキング規定の遵守
- コースからの障害物の除去
- 他の競技者への妨害、干渉防止
- 必要に応じ、その他のコントロール

385.1.2 コントロール係は、与えられた任務を行うための資格が必要である。

386 医事及び安全面 (Medical and Safety)

386.1 医事・救護係長 (Chief of Medical and Rescue Service)

386.1.1 医療・救護係長は全てのPCCCに対して任命されなければならない。医事・救護係長は競技委員会のメンバーを務め、ジュリー・ミーティングへの出席を求められた場合は出席する。医事・救護係長は医師資格を保持していなければならない。

386.1.2 救急処置と医療サービス (First Aid and Medical Service)

救急処置及び医療サービスはトレーニング時間中いつでも受けられるように、完備しておかなければならない。

医事サポート要件の詳細は、医療ルールを含むFIS医事手引きの1章、及びガイドラインに記載されている。

386.2 対策 (Planning)

386.2.1 医療役員は、急患応急処置や避難、負傷、事故、或は死亡に対する通知書の準備をしなければならない。負傷や事故、死亡時の処置と手順に関する情報は、選手、及び競技役員に提供されなければならない。

386.3 スタッフの訓練 (Training)

386.3.1 医療役員は、選手の安全性と健康面でのニーズに応じて、医事、安全面及び緊急時のためのメディカル・スタッフを必要数任命し、指示を与え、訓練しなければならない。

386.4 応急処置ステーション (First Aid Stations)

386.4.1 コースに沿って、応急処置ステーションを示す標識が設けられなければならない。スタート、及びフィニッシュ・エリアの2ヶ所に、暖房のきいた応急処置ステーションを設けなければならない。

387 寒気対策 (Cold Weather Precautions)

387.1 背景 (Background)

387.1.1 寒気への安全対策として、ジュリーは、次の3つの要素を考慮しなければならない。すなわち気温、寒気に晒されている時間、及び衣類その他寒気に対する保護物である。これらの要素は、例えば、寒風などの関連情報とともに、寒気への対策について決定を下す際に考慮されるべきである。

- 387.2** 気温-15°C~-25°C (Between minus 15° and minus 25° C)
- 387.2.1 コースのいずれかの地点で気温のレベルが-15°C~-25°Cになることが予想された場合、選手に対して寒気対策を勧告しなければならない。そのような状況下では、情報収集したり組織者の勧告に従うことは、選手の義務である。
- 387.3** 気温-25°C以下 (Minus 25°C and below)
- 387.3.1 コースの大部分の箇所気温が-25°C、もしくはそれ以下となった場合、競技は延期か中止されなければならない。
- 387.4** 暖気対策 (Warm Weather Precautions)
- 387.4.1 競技用コースでの気温が5°C以上になることが予想され、日射がさらに続くようであれば、選手に対して衣類、日焼け対策、競技前及び競技中の十分な水分補給の必要性などについて勧告しなければならない。その際、給食所でも適切な飲料水を通常よりも多めに用意しておかななければならない。応急治療所では、脱水症状や日射によるあらゆるダメージに対する警戒体制をとり、これらに対する手当てのための準備をしなければならない。
- 388** 競技中止の手順 (Cancellation Procedure)
- 388.1** 方針 (Policy)
- 388.1.1 競技の中止、若しくは延期の際に考慮されるべき要素は通常次の通りである。すなわち、気温、天候、雪の状態、コース状況等である。競技延期の場合、スキー連盟と相談の上で新しい日時を検討すること。
- 388.1.2 競技6日以上前の中止・延期通告 (Cancellation or Postponement more than Six Day Before the Competition)
- 競技が延期あるいは中止となる場合、選手全員に対して遅くとも6日前までにその旨を通告しなければならない。また組織委員会と同様の情報を、国内スキー連盟、及び報道関係者にも即刻送るとともに、ホーム・ページにも掲載しなければならない。組織委員会は、競技の中止及び延期を決断する時、TDと共に協議をしなければならない。
- 388.1.3 中止の際の短い通知 (Short Notice Cancellation)
- 競技が中止となる場合、競技日の6日前あるいは2~3日前に、短い通知が出される。選手および役員が安全が脅かされる場合を除いて、スタート予定時間3時間以内の中止は認められない。中止手順には、選手に対する情報提供も含まれない。

なければならない (ICR382.2 参照)。中止の決断はジュリーによって下されるものとする。

388.1.4 返金方法 (Refund Policy)

競技が延期となる場合、参加料を支払った選手は、追加料なしで延期日に出場できる。選手が延期日に出場しない場合でも、参加料は返金されない。競技が中止された場合の参加料の返金方法は、その競技の告示の際に (開催要項の中に) はっきりと詳細に述べられていなければならない (ICR382.1 参照)。

389 国際スキー競技規則 (International Ski Competition Rules=ICR)

389.1 基本的ルール (Fundamental Rule)

389.1.1 このセクション (G) に含まれていないあらゆる事項は、SAJ 及び国際競技規則第2巻 (ルール・ブック II) のA~Hに準ずる。

H. ローラースキー競技大会 (Rollerski Competitions)

- 396** ローラースキー競技大会 (Rollerski Competitions)
- 396.1** ローラースキー国際競技規則の定義 (Rollerski ICR Definition)
- 396.1.1 国際競技規則(ICR)のうちこのセクションに含まれる事項は、これまでの国際競技規則(ICR)で述べられてきたクロスカントリースキーの方法論とははっきりと異なるローラースキーの特殊な側面を焦点化し、述べようとするものである。
- 396.1.2 国際競技規則(ICR)ではローラースキーとクロスカントリー(ICR200-226.2を含む)の共通した部分にある、明確な必要条件は用いられるものとする。
- 396.1.3 さらに、国際競技規則(ICR)のクロスカントリーセクションで用いている原理原則はローラースキーにおいても適用されなければならない。
- 396.2** 競技用品 (Competition Equipment)
- 396.2.1 ローラースキーの競技用品は一般に共用されている商業製品を用いるものとする。
- 396.2.2 競技中に不作為の用品チェックを行なう。
- 396.2.3 ローラースキーの車輪の直径は 100mm 以上あってはいけない。
- 396.2.4 ローラースキーの全長は前輪の車軸から後輪の車軸までが 53cm 以下であってはいけない。
- 396.2.5 2本のポールは、ローラースキーまたはクロスカントリースキー用のものを用いる。
- 396.2.6 承認された自転車用ヘルメットと目を保護するもの (サングラスなど) を用いる。
- 396.2.7 シューズ (ブーツ) はクロスカントリー用のビンディングでローラースキーに固定されていなければならない。
- 396.2.8 競技中のローラースキーやポールの交換は認められる。
- 396.3** 競技フォーマットとプログラム (Competition Formats and Programs)
- 次の競技フォーマットと推奨距離を用いて競技会はクラシカルとフリーどちらの走法でも実施することができる。
- 一般レース (Prologue)
 - ・ 登り走: 4 – 6 km = すべての区分
 - ・ 起伏走: 8 – 12 km = すべての区分
 - インターバル・スタートまたはパーシュート・レース:

- ・ 8－18 km =女子とジュニア男子
 - ・ 25－30 km=成年男子
 - 登りレース（インターバル、パーシュートまたはマス・スタート）：
 - ・ 登り10 km=女子とジュニア男子
 - ・ 登り15 km=成年男子
 - 個人KOスプリントレース：
 - ・ 150m－250m=すべての区分
 - パーシュート
 - ・ 8－18 km =女子とジュニア男子
 - ・ 12－30 km=成年男子
 - スキーアスロン
 - ・ 6－12 km+6－12 km=女子とジュニア男子
 - ・ 10－18 km+10－18 km=成年男子
 - チーム・スプリントとミックス・チーム・スプリント（2名1チーム）：
 - ・ 2×2 km×3周=女子とジュニア男子
 - ・ 2×2 km×5周=成年男子
 - リレー：
 - ・ 4 km×3=女子とジュニア男子
 - ・ 6 km×3=成年男子
- すべての競技距離は、±15%の精度で測定しなければならない。

396.4 標準的なコース設定 (Course Design Standards)

- 396.4.1 ローラースキー競技はアスファルトまたはそれに準じた（類似した）人工的なもの、又は固められた自然の路面で行われる競技である。
- 396.4.2 コースは競技者の安全が最優先された設定でなければならない。
- 396.4.3 コースに沿って、又はコース脇にあるような障害物や危険なものは、すべて取り除く、もしできない状況があるならばそれらにははっきりとして目印を付け、必要な安全マットなどを取り付ける。
- 396.4.4 コースの幅は最低4 mとする。
- 396.4.5 下りの箇所では急なカーブがあってはならない。
- 396.4.6 ウォーム・アップ、クーリング・ダウン・エリアは確実に設けなければならない。

396.5 一般的なコース準備 (General Course Preparations)

- 396.5.1 コースは少なくとも競技前日には、インスペクションや公式練習のために準備しておかなくてはならない。

396.5.2 コースは一般の通行を遮断しなければならない。ただし組織委員会、ジュリー
安全確保のための大会関係車（オートバイ）は、競技中、公式練習中でも通行を
許される。

396.6 競技者に対する条件(Requirements of the Competitors)

396.6.1 競技期間は1月1日から12月31日までとする。年令区分はクロスカントリー
ICR341 年齢カテゴリーの条項を参照。

396.6.2 最終エントリーは競技日の少なくとも2週間前までとする。

396.6.3 グループ分けの方法

396.6.4 特別シードについてはワールド・カップ・ルールに準ずる。

396.7 給水所(Refreshment Station)

396.7.1 競技が8 km、又はそれ以下の距離では、フィニッシュ・ラインを越えてからの
フィッシュ・ゾーンでのみ許される。

396.7.2 8 km以上 30 km以下の競技では、乗り物を使うことなくコース上での提供は
許される。
30 km以上の競技ではジュリーの裁量によりオートバイを使うことが許される。

396.7.3 自転車を含むあらゆる種類の乗り物はコース上で禁止されている。

396.7.4 選手は競技中、用具の交換や修理は許されるが、交換用品や道具を渡される以
上の外部からの助けを得ることはできない。

396.7.5 登りレースではジュリーによって給水所の位置を決めることができる。

396.8 スタートとフィニッシュでの条件(Start and Finish Requirements)

396.8.1 スタート・ラインはペンキ類を用いてはっきりと表示されなければならない。

396.8.1.1 スタート・エリアは、正しい出発を行なうため6 m以上の幅が必要である。

396.8.1.2 スケートイングはスタートから70 m地点までは禁止される。

396.8.1.3 パーシュート・スタートでは、2 m以上の幅で10 m以上の長さにとわたる2本
以上の個別のレーン（コリドー）が準備されなければならない。

396.8.1.4 ワールド・カップにおけるマス・スタートとパーシュート・スタートではスター
トのスケートイング禁止区域やフィニッシュ観察のため、少なくとも2台のデジタル
ビデオ・カメラが用意されなければならない。

396.8.1.5 スタート地点とフィニッシュ地点の連絡のため、無線や電話がなければならない。

396.8.1.6 スタート地点とフィニッシュ地点には放送設備がなければならない。

396.8.2 フィニッシュ・エリアの条件(Finish Area Requirement)

396.8.2.1 3本の個別のレーン（コリドー）が2m幅でゴール手前50m地点から表示されなければならない。コース最後の150mは相対的に直線でなければならない。

396.8.2.2 ローラスキー・ワールド・カップ、ローラスキー世界選手権ではフィニッシュ・コース撮影のため最低でも2台のデジタルビデオ・カメラが用意されなければならない。またジュリー室ではビデオを再生できるよう準備しておく。

396.8.2.3 フィニッシュ・ラインはペンキ類を用いてコース上にはっきりと表示されなければならない。

396.8.2.4 フィニッシュ・ラインにつながるフィニッシュ・ゾーン（ロールアウト・ゾーン）はスプリント競技では最低100m必要である。ディスタンス競技ではジュリーがこれを決定する。

396.8.2.5 スタート・エリア、フィニッシュ・エリアおよびエクスチェンジ・エリア（中継ゾーン）では、観客、認められていないコーチ、サービスマンなどに妨げられないようにしなければならない。

396.9 計時(Timing)

396.9.1 リレーやスプリント競技ではフォトフィニッシュ・カメラが用いられなければならない。

396.10 エクスチェンジ・ゾーン(Exchange Zone)

396.10.1 リレーやチーム・スプリントにおけるエクスチェンジ・ゾーンは30m以上の幅を持ち、長さは50m以上必要である。

396.10.2 エクスチェンジ・ゾーンの始まる部分は、はっきりとしたラインによりマークされなければならない。フィニッシュする選手の先端ホイール部分がエクスチェンジ・ゾーンのラインに達したとき、続く選手はエクスチェンジ・ゾーンからの出発が許される。選手間の身体的な接触は必要としない。